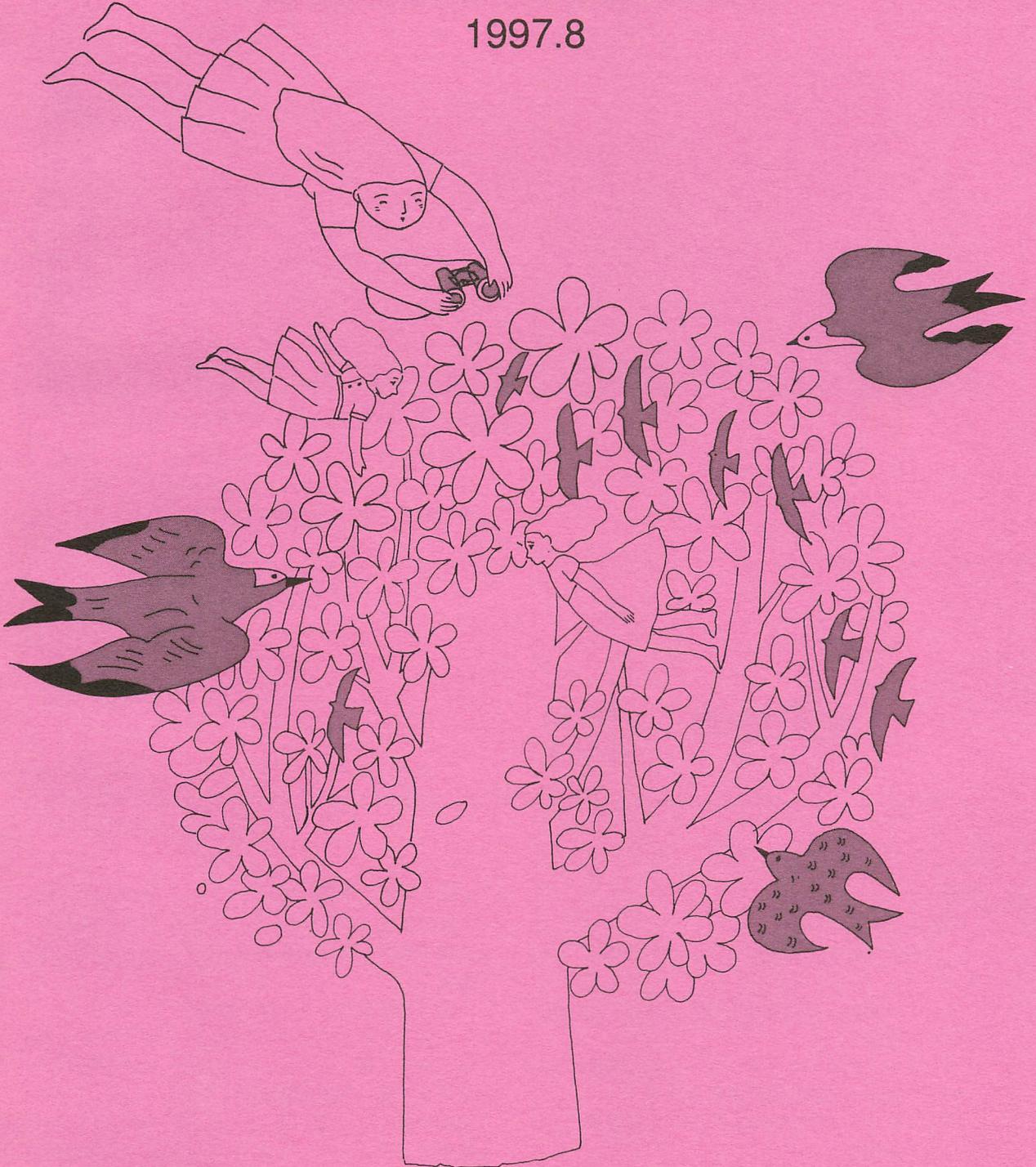


51号

# 愛鳥教育

1997.8



全国愛鳥教育研究会



伊良湖岬風景（伊良湖ビューホテルパンフレットより）

秋期研修会（10/10～11）の場所は、サシバの渡りのメッカとして名高いこの伊良湖岬です。P28を御参照の上、奮って御参加下さい。

## 愛鳥教育 No.51 1997.8

### 目次

巻頭言	平成8年度 事業計画 -----	箕輪多津男 24
実績発表大会について	平成8年度 事業報告 -----	箕輪多津男 24
(2)第1次審査～書類審査 ----- 江袋島吉	平成8年度 収支決算報告 -----	25
クラフト	論説	
足もとに転がる自然からの発想 - 遠藤 勇	鳥の名前がわかってから始まる	
もりまき通信	バードウォッチング -----	平田寛重 26
フィールドサインをひろったら - 森 真希	はじめての鳥 -----	鈴木奈津子 27
1996年度版小学校国語教科書における	平成9年度 秋期研修会のご案内 -----	28
野鳥の取り扱い状況について ---- 平田寛重	編集後記 -----	31
冬期研修会報告	愛鳥クイズ -----	32
東京都中央防波堤埋立処分場 ---- 箕輪多津男		22

## 巻頭言

# 実績発表大会について

## (2)第1次審査～書類審査

会長 江袋島吉

### 1. はじめに ～“実績発表大会”の変容

前回 (No. 49) は“実績発表大会”の由来と背景について記したが、以下2回にわたり、審査の概況 (小学校中心) について触れてみたい。

本題については、本誌巻頭言 (No. 33・34) においても述べているが、既に10年の歳月を経て色もあせ、また、近年における本大会を取り巻く世情にも大きな変化がみられ、改めて見直すことも意義深いものがあると考え。

その最たるものは名称の“鳥獣”の部分が“野生生物”と変わり、それに伴って対象もチョウ、ホタル、サケ、カメなどの昆虫や魚類から野生生物全般に及んでいる点で、大きく様変わりをしている。

また、平成元年3月の学習指導要領の改訂、それに続く環境教育指導資料の作成などによって、環境教育の充実が求められた結果、環境教育全般の底上げに視点が注がれ、従来一種の独自性を持っていた愛鳥教育が、その渦の中に埋没してしまわないかとの懸念が生じてきたことである。

### 2. 審査の概要と留意点

それはさておき、第1次選考は、事前に各都道府県 (以下各県) 知事の推薦を受けた学校 (小・中・高)、一般団体の“実績報告書” (約30～40件) をもとに、環境庁・文部省・林野庁・日本鳥学会・山階鳥類研究所、日本鳥類保護連盟、昆虫学などの学会、本研究会などの代表より成る審査員の手によって選考を受けるのであるが、以下私の体験を基に、報告書の作成について気づいたことを若干述べてみる。

- (1) “モデル校指定年数” ～ モデル校 (または類似の呼称) 歴は実績に加味されるので、現在・過去を含めた全期間を明記すること。
- (2) “活動の内容” 及び “野生生物保護のために果たした効果” ～ 実績そのものであるから、記入上特に留意を要する点が多い。各学校・各県の記入状況が千差万別で、まさに審査員泣かせである。

最も困るのは“実績”関係の欄を、数行の項目だけで済まされると、審査の余地がほとんど無く、当該教師や児童たちが気の毒に思えてならない。

反対に細かい字でぎっしり埋め、他の欄をも占領?し、さらに自作の追加用紙も満杯?加えて分厚い資料を添付するなど、過剰反応?気味のものもあり、実態はよくわかるが果たしてどんなものか。

過去に優秀な成績を挙げている場合は、まず各学校が他の欄を適当に利用するなどして、程々の量の中で要点をよくまとめ、中には所管当局による指導・助言のあとが見られるものもあるが、いずれにしても個性豊かなものを望みたい。

### (3) 指導過程について ～“活動の内容”

この点については、i. in, ii. about, iii. for - nature の形を探る学校が増えているようだが、“親しむ”・“知る”・“守る”の真の意味や活動の内容について追求を深め、上滑りのしない過程を提示してもらいたい。

特に小学校の“守る”活動の場合、中学・高校の擬似的な行動化に陥る過ちだけは避けるべきだ。

### (4) 教育課程との関連

- ① 教育目標や経営方針との関連を明確にする。
- ② 教育課程上の位置づけを適正にする。
  - ・道徳 ・各教科 ・特別活動 ・その他。
  - ・特に環境教育における位置づけ。
- ③ 教育対象の児童についての配慮を加える。
  - ・全校児童の参加が望ましい。
- (5) その他
  - ① P T A や地域に対する働きかけと相互協力を配慮する。
  - ② 傷病鳥やひななどの保護については保護センターや専門機関に委任することを本旨とする。
  - ③ 愛鳥教育による国際交流を大々的に扱った例もあるが、国際理解教育に譲るべきであろう。

以上、若干舌足らずの感を禁じ得ないが、その点については“第2次選考～発表”の中で取り上げる所存である。

クラフト

足もとに転がる自然からの発想

石ころがおにぎりやフクロウに変身！

バードカービング作家・工業デザイナー 遠藤 勇

渚の石への想い

私は小学生の頃、海に近い所に育ったせいか、よく浜にひとりで遊びに行きました。何をしてもなく、ただ海浜を歩くのが好きだったようです。波打ち際に近づき、渚の音を聞き、波につかり、周囲に舞うカモメと戯れました。また、波に運ばれてきた流木や生活用具が「不思議なかたち」で語りかけてきて、興味をもたせてくれたものです。

その海浜は石ころが多く、いつも私のポケットには石ころが何個か入っていたのを思い出します。丸く小さく平らな石は、波打ち際に「波切り」用に使い、波を何回ジャンプするかを数えます。それから丸く平らな手のひらサイズのものは「石けり遊び」用に、また黒いつるつるした感触のものは、椿油かマーガリンを塗り、布でよく拭いてさらに磨くと黒光りした光沢が宝石のように輝くので、大事な宝物として扱っていました。



その頃に遊んでくれた石ころの事が忘れられないのでしょうか、いまだに離れられないようです。



写真1-1 渚のある風景—以前はこの砂浜は広大な砂浜として長く続いていましたが、自動車道の開通により砂浜の距離が短くなってしまいました。(小田原海岸)

### おにぎり石

終戦後の食料不足時に育った私は、「おにぎり」や「磯辺巻」には特別な憧れを持っていたようです。

その頃のイメージをふくらませて「渚の石ころをおにぎりに…」という発想が生まれました。

素材になる石はどんなものでもよいのですが、できれば海浜の石がよいでしょう。海浜の石は山や川から運ばれるので、海に入りゴツゴツした石も互いに接触しながら角がとれて、やがて丸い形になり表面も柔らかくなってきます。こうした石は波の強い海浜にいっぱいあります。形や大きさはさまざまな

ので自分の好みに合う石を探します。ユニークな形のものや何かイメージを沸すものなどを見つけたら拾います。

手で持った重さや感触も大切です。石の表面を触ったり握ったりして、好みの形を集めます。石の色合いについては、変化に富んだ色のものを多く集めてください。

形の変化や色のバリエーションが豊富なほど、楽しくなります。あれこれ探しているうちに、袋やポケットの中は石の重みでいっぱいになっているはず

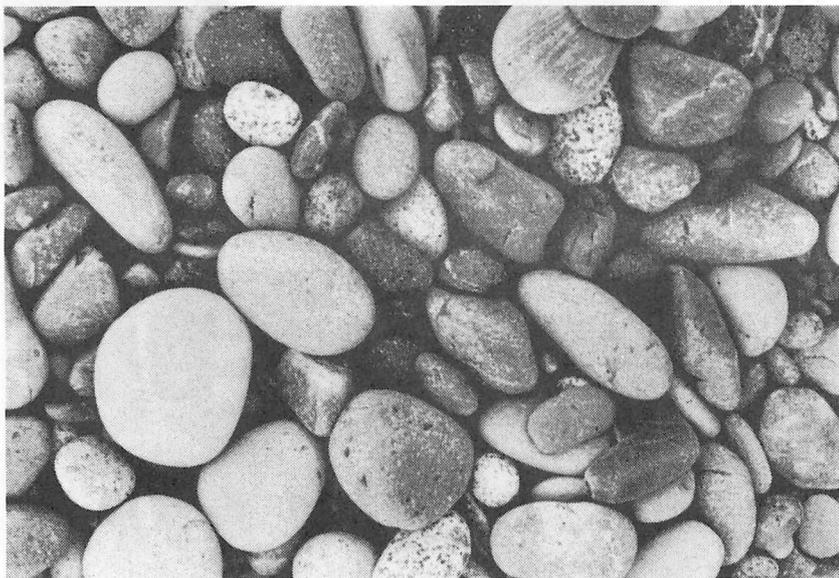
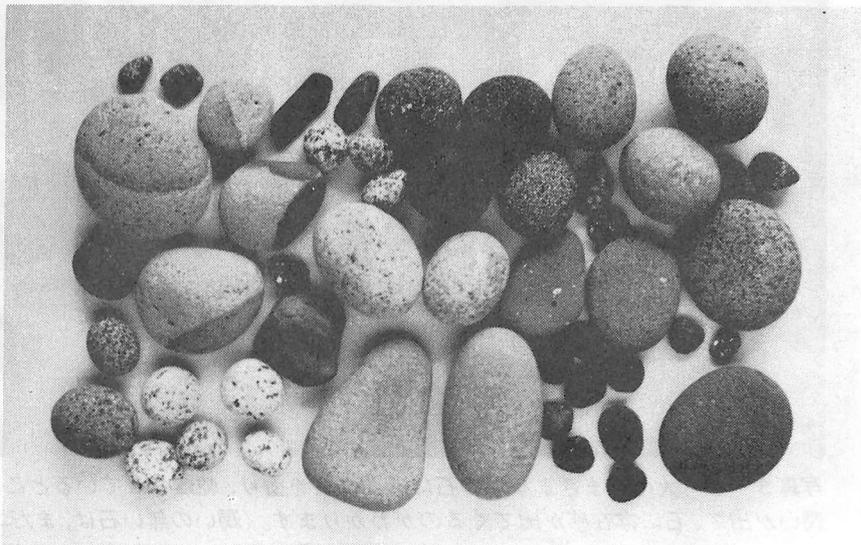


写真2-1 渚を歩いてみると様々な表情をもつ「石ころ」があります。おもわず拾ってみたくなる石があれば、多少重くなりますが、大切に持ち帰ります。(渚の石をそのまま撮影しました。)

写真2-2 おにぎり石になりそうなもの、黒や白や緑の色のあるもの、面白い模様のあるものなど、興味のある石を持ち帰ります。ひとつひとつの石を手にとり眺めていると、想像力をかき立ててくれるはず



のり巻の質感は透明ニスで

持ち帰った石は、タワシなどで砂や泥をよく落とし、水洗いしてから乾燥させます。水洗いした石がよく乾燥したら、クリアラッカーまたは透明ニスとシンナーを用意します。

筆は使い古した程度のもので間に合います。(なぜラッカーやニスを使うかといえば、石は濡れると潤いが出て、黒ぼく光沢が出ます。それを応用したものですから、ラッカーやニス以外のものでも十分可能です。)

筆にクリアラッカーをつけたら、片手に石を持ち、好みの幅に筆を走らせます。石の周囲をひと回りさせますが、塗料がたれ落ちないように下に新聞紙を敷いておきましょう。

石が好みの帯状に塗り終わったら、塗料が乾くまで石には触らないでください。使い終わった筆は、次回も使えますので、シンナーでよく洗っておきます。

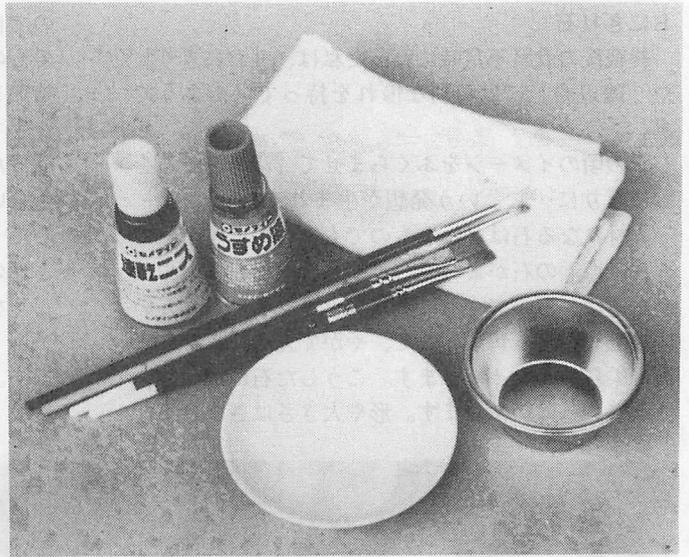


写真3-1 おにぎり石をつくるために用意するもの。透明ニス、またはクリアラッカー。筆、調合用カップおよび小皿。布きれ、新聞紙等。



写真3-2 大小さまざまな形の石に透明ニスを塗り、乾燥させているところ。ニスを塗ったところは潤いが出て、石に存在感が出てくるのがわかります。(潤いの無い石は、まだニスを塗ってありません。)

### 楽しく展示の演出

塗料が十分に乾くのを待ってから、形の揃ったものや大小のグループ、色違いのものなどを分別しながら展示の工夫をしてください。出来上がった「おにぎり石」の表情は様々で魅力的になります。自然石の素地そのままの素朴な面に濡るある帯で巻かれて、素地のザラザラした面と塗り上げることでしっとりとした光沢とのコントラストが見事に調和しています。出来ばえを観察したら、効果的に楽しく飾る工夫をしてください。

形の揃ったものどうしや大小のグループ、色違い

別に様々に分別しながらアイデアを出してください。

黒い板や布の上に数を揃え置いてみる。竹や藤で編んだ籠に大きなおにぎり石を入れてみる。木や陶器、ガラスの皿の上やお弁当風に…と。いろいろ工夫をして演出をするといいいでしょう。

おにぎりや磯辺巻の演出ができたところで、それを食卓や玄関に、または机の上などに飾ります。足もとに転っていた何でもない石ころが、大変身していることに気付くことでしょう。

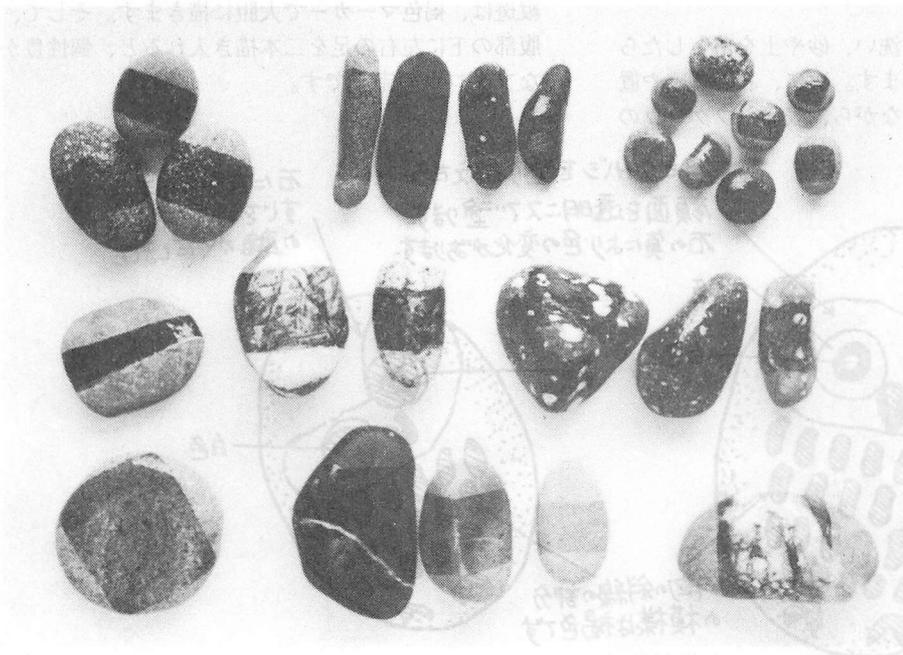


写真4-1 小さく丸いもの、細く長いもの、真丸のもの、卵形や磯部巻、おにぎりにそっくりなものなどを分類しておきます。この段階で細長いのり巻石は「箸置」に使いたいという発想が出ます。

写真4-2 おにぎりの姿に近いものを大きさや形を揃えてグループにしてみました。このままでも良いですが、もうひと工夫をして、布を敷いた上、木の皿や藤で編んだ籠等に置いてみると、一段と素晴らしくなります。



### フクロウを作ろう

「おにぎり石」にも石の形や色合いの違いがあり、普通の石ころにもそれぞれの持ち味、存在感があります。また、水に濡れると急に潤いのある表情に変わり驚きます。

石の質感や表情が理解できたところで、石にフクロウのペインティングです。石の大きさは5cm～7cm位。形はたまご形や小判形がフクロウの形におさめやすいでしょう。

塗料は、どんな所に塗ってもよい不透明性のペイントマーカーを使います。(アクリル系やエナメル系がある。)

まず初めに、石をよく洗い、砂や土を落としたらタオルで拭き取り乾かします。次に、石の質感や置いた時の安定感を確かめながら、表面(フクロウの

絵を描く面)と裏面とを決めます。表が決まったら、いよいよフクロウの顔の位置をどの部分にするか考えます。

ちょっとした凹凸や模様、色の変化があれば、それを顔の特徴として生かしてみましょ。顔の位置が決まったら、ペイントマーカーで丸いつぶらな目を大きく左右に描きます。

目の描写は、表情が一番出やすい所です。左右の目の間にくちばしを描き入れた後、「おにぎり石」を作る時に使う透明ニスで顔面を塗り上げると、フクロウの顔のできあがりです。胸から腹にかけての縦斑は、褐色マーカーで大胆に描きます。そして、腹部の下に左右の足を二本描き入れると、個性豊かなフクロウの完成です。

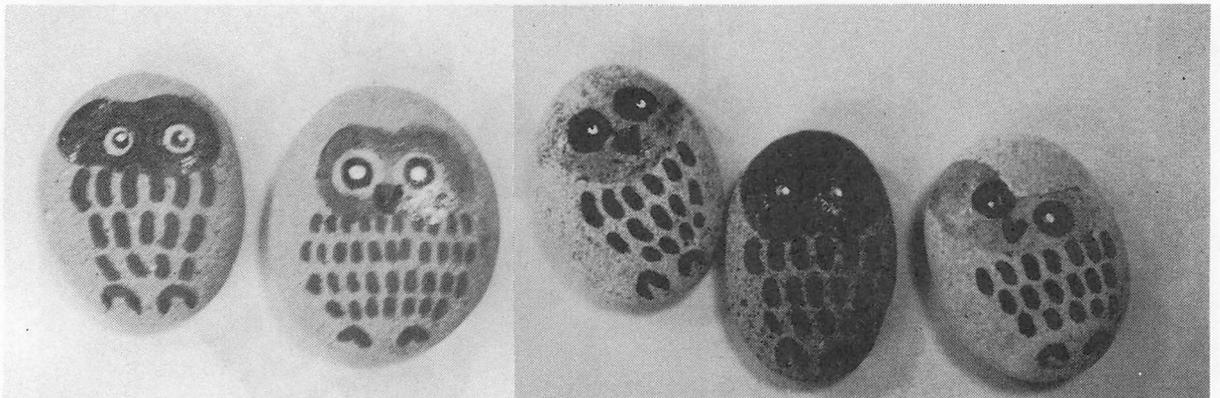
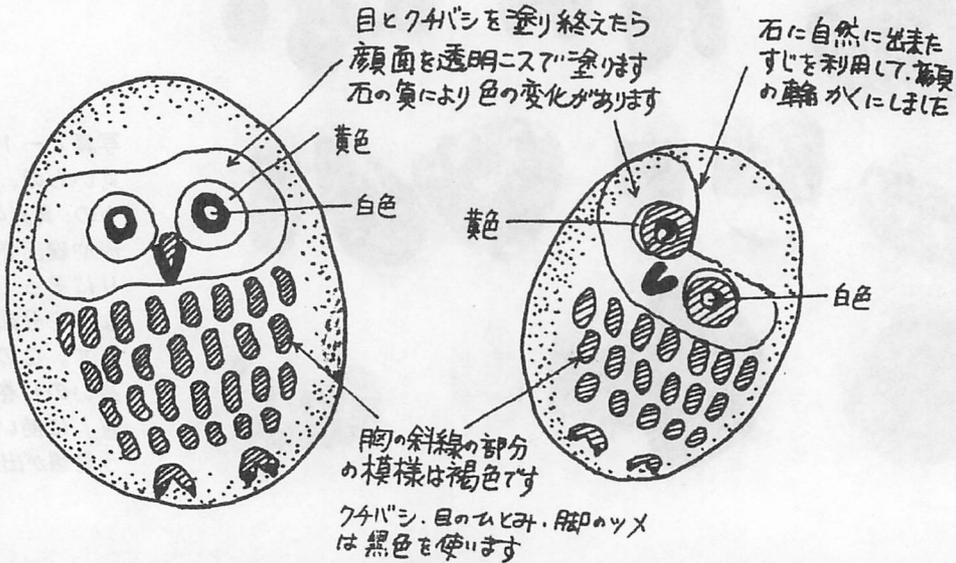


写真5-1, 2 顔の輪郭や大きさ、向きによって変化が出ますが、目の位置に特徴を出すことで個性豊かなフクロウが作れます。5点の作の表情の違いに注目して下さい。

シロフクロウを作ろう

北の大地に住む純白のフクロウで、雪フクロウともいいます。用意する石の大きさは5cm以上がよく、表面がゴツゴツしているものよりサラリとした面の方がよいでしょう。「フクロウ」を画いた石より平坦でなめらか、色も明るいグレー系のもをおすすめします。表面と裏面、顔の位置の決め方は、「フクロウ」の場合と同じです。

絵の具は、アクリル絵の具の下地に使うジェツン（白色）とアクリル絵の具の黄色と黒色です。（水彩絵の具を使う場合は、不透明水彩がよいです。）

シロフクロウを描くときのポイントは、胸や翼の横じまのパターンを大柄に描くことです。顔の表情は、フクロウよりも可愛らしく、特に目はチャーミングに表現してください。目の色は黄色に着色して、黒い瞳をその上からハート形に描くと、大変可愛らしい表情になります。

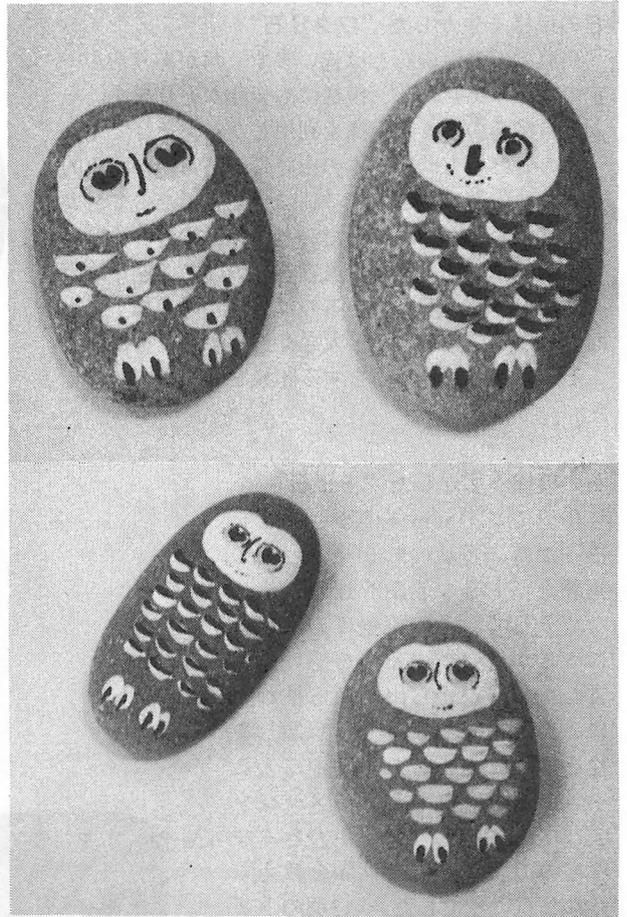
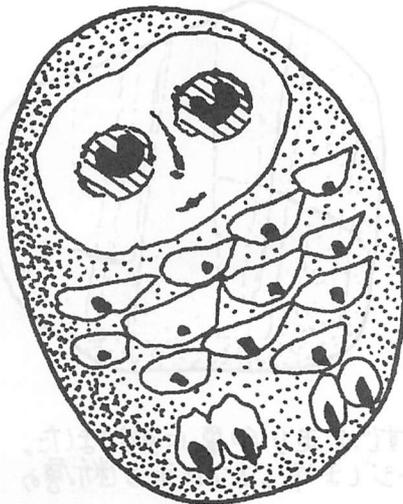


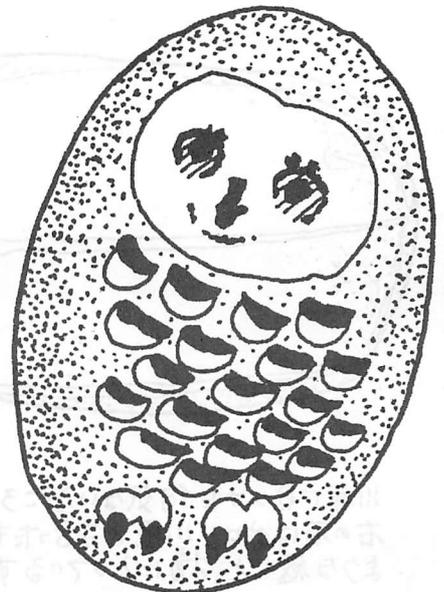
写真6-1, 2 北の大地に住むシロフクロウは、雪フクロウと呼ばれるように、純白で愛らしい雰囲気をもつ鳥なので、彩色をするのが楽しくなります。簡単に作れるので、素朴なプレゼントとしても使えます。



シロフクロウの  
パターンデザイン

顔面の白い部分が  
白色。黒い部分が黒  
色です。目の斜線  
の部分だけを黄色に  
塗ります。

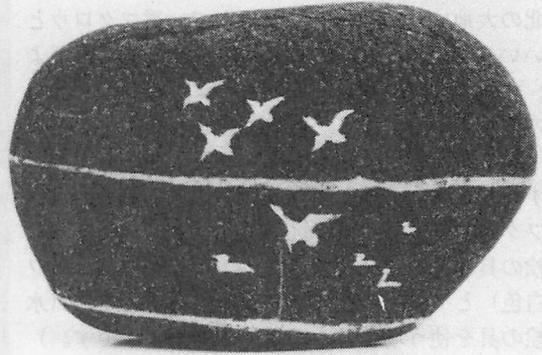
左右の好みのパター  
ンで彩色してください。



### 石の模様を生かした“ワタリ石”

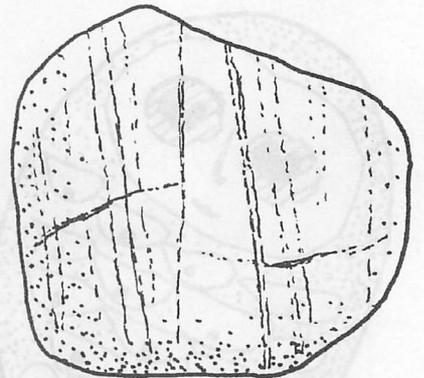
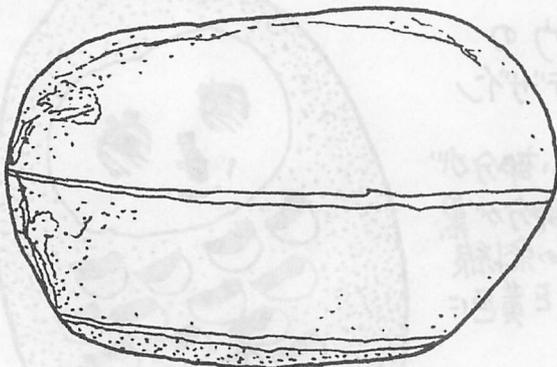
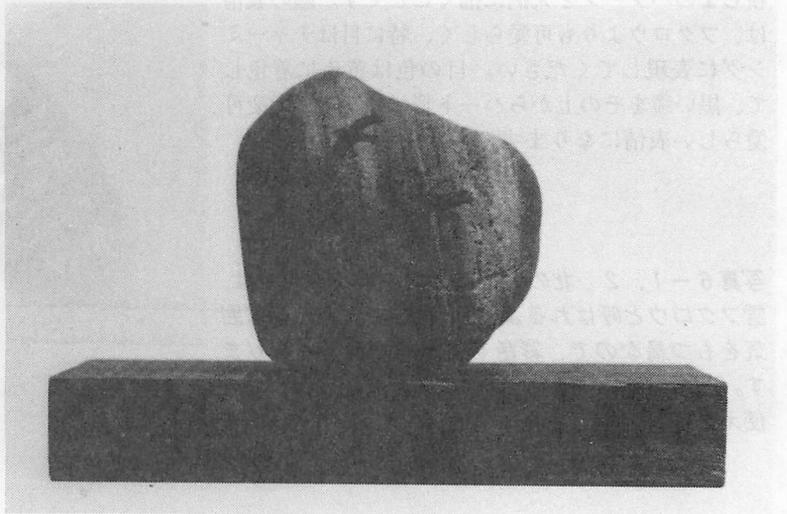
川原の石は海の石とは違います。角があり形も一定ではありませんし、模様にも変化があります。そんな自然そのままの模様を利用した石あそびです。

この石は横方向に二本の白い帯があるのが印象的です。白い帯の間が大河や湖に見えたので、カモやガンの絵を入れてみたいと思い、絵の具の白色で描いてみました。多少遠近感をつけて、遠くにいるのは小さく、近くにいるのは大きく見せます。水面からの飛び立ちの姿を大きくダイナミックに画くことにより、鳥が渡りをする印象を強くしてみました。



### 石の模様を生かした“トビ石”

川原でこの5cm弱の小さな石を拾った時、帯状のしま模様と石の輪郭から大きな岩山を連想しました。そして、その絶壁の岩山を背にトビが舞っている姿を思い浮かべました。岸壁から出ている枯れ木に一羽が止っている姿を想像して絵を描いてみました。手中に入る小さな石ころですが、イメージを広げると意外に夢が大きくなるものです。そんな世界を教えてくださいました。 (3羽のトビは褐色で書き入れただけです。)



川原でつけた何気ない石ころ。左は横に平行な2本のすじが走り印象に残りました。右の石はやはり川原で拾ったもので、岩山の壁面をイメージしました。たまたま走る断面の感じが、横に入っているすじが木の枝に見えました。

## 石に合った鳥の絵を描く

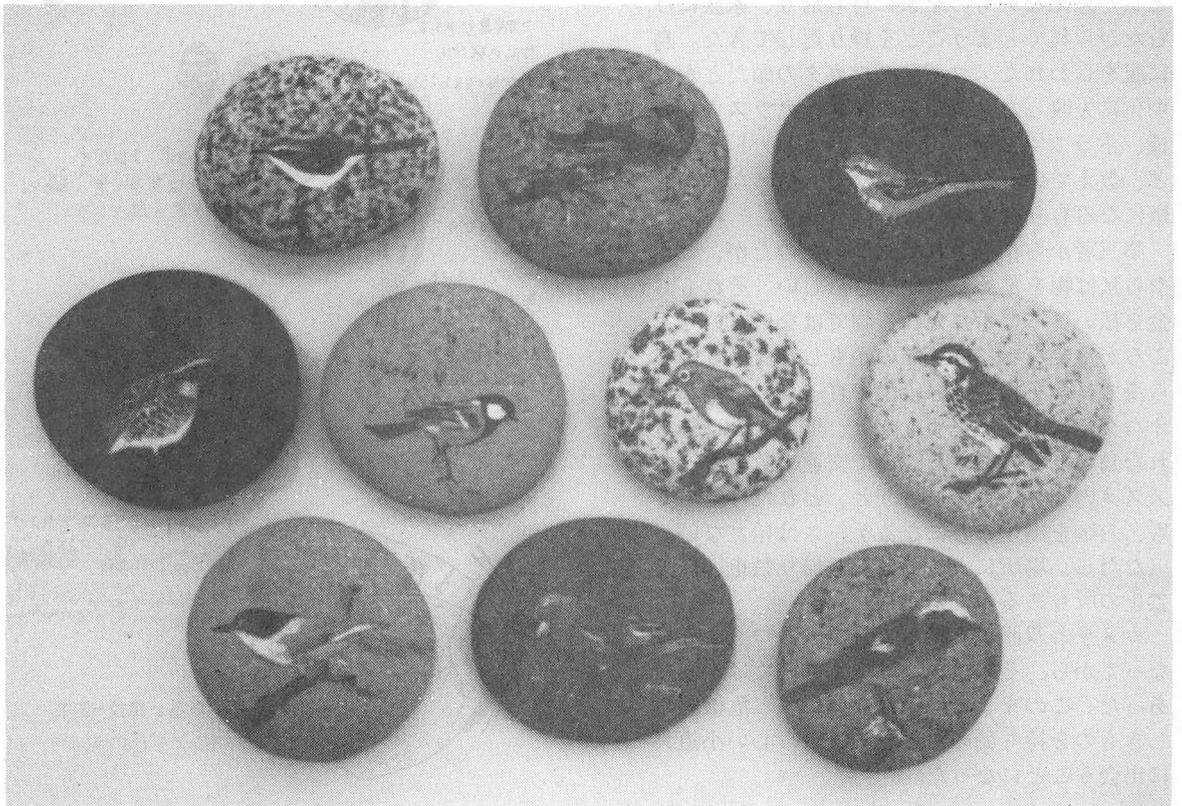
「おにぎり石」や「フクロウ」の絵を画くのを楽しんで、自然のままの模様や質感を利用した「ワタリ石」の制作をしてきました。ただの小石でも見方しだいで面白い発想が湧いてくるはずですよ。

石に慣れてきたところで、本格的な鳥の絵を描いてみましょう。石をキャンパスに見立て、自分の好きな鳥や石の表情に合った鳥などを自由に考えると、自然に構図もできてきます。

小さな胡麻つぶをまぶしたような石にはウグイス、白い地に黒いしま模様がある石にはメジロ、グレーのマットな石にはオナガ、黒く潤いのある石にはキセキレイ、ベージュ色の石が似合うシジュウカラ等々。自分の想いや、鳥のイメージを浮かべて描くのは楽しいものです。置物やペーパーウェイトとして、プレゼントにしても喜んでくれます。私の手元に残っているのは数少なくなっていました。

## ひとつ残したサギ石

「石の中に別の石が…」よく観察すると黒褐色の石に異質の部分があり、一部が欠けたようでもあり、また、別の石の模様にも見えます。それでは水辺の石にたたくむコサギが似合うかも知れないと描いてみました。バランスよく石に止り片足を上げているポーズが気に入って、残しておきましたら最後の一つになってしまいました。



もりまき通信

フィールドサインをひろったら

東京農業大学農学部栄養学科4年 森 真 希

●フィールドサインって何？

きちんとした定義があるかどうかは知らないのだが、広く言ってしまうと、その辺にある物はみんなフィールドサインになってしまうのかもしれない。道端に落ちているイヌの糞や、煙草の吸殻、鳥の羽一枚でさえも、何らかのメッセージを持っているフィールドサインと考えることができそうである。

今回はそういった物の中から、海や山や里や街で野生生物たちが残していった物、又は、その生き物自体が拾える形で存在しているものについてお話ししようと思う。

●やっかいな収集癖

先輩や仲間たちと一緒にあちこちで遊んできた方がいいが、その度に私は他の人が見たらゴミとしか思えないものを家に持ち帰り、家族にけむたがられてしまうことを繰り返してきた。鳥に腹を食われたノコギリクワガタの頭だとか、羽化に失敗したクスサンのマユ、カラスウリの種、トラフズクが吐き出したペリットなどなど、数えていったらきりがなく、拾った本人も嫌になる有り様であった。

第三者から指摘されて気づいたのだが、どうやら私は物を集めるのが好きらしい。それもお金を払い買って手に入れる物ではないということが重要なポイントなのかもしれない。いくら海で貝殻を拾おうと、山で真っ二つに割れたオニグルミの実を集めようと、里でタカに狩られた鳥の羽を拾おうと、街で交通事故に遭ったスズメの死体を持ち帰ろうと、どれだけ拾っても、お金を出すことになるケースは殆どない。(ただし、場所によっては持ち帰り禁止、採集禁止の所もあるので要注意。)

カメラと双眼鏡を持って外をうろつくようになってから、その拾い物は増えていくばかりであった。このままではいけない…と危機感らしきものを持ち始めたとき、素晴らしい小道具に出会うことになった。

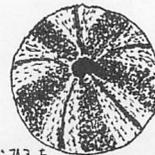
オニグルミの殻がなかに赤腫を食われてしまったノコギリクワガタの頭がこの状態で2日間生きていた。



リスの工サ場に落ちていたオニグルミの実。きれいに2つに割ることでできるのは、リスの仲間くさくさいなりとか。



イモムシからモナイトアヒの種子「アウツラフシ」



三浦半島で採ったウコの死骸。針がなくなるとうなる



西表島で採った「シカ」イ。生きていたときは黄色と黒の縞々。死ぬと白と黒の縞々になる。

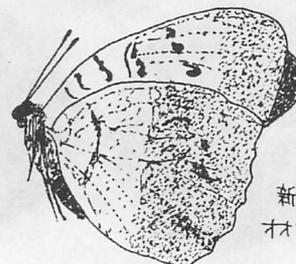
果樹園に多いイタガリマユ。



→20%にまで生きている。上部がきれいに穴があいていると無事羽化した証拠。



道端で死んでいたスズメの子供。みからびて3日たてていた。



新潟の国道で事故にあつたオオウラギリスジヒロウモン

●タッパーとチャック付きポリ袋

その存在は以前から知ってはいたが、ほったらかしにしていた拾い物を整理整頓することに使えるなんて考えてもみなかったのだ。何気なく拾ったエゴノキの実をたまたま持っていた袋に入れたとき、「これは結構使えるかも！」と頭に裸電球が光ってしまった。

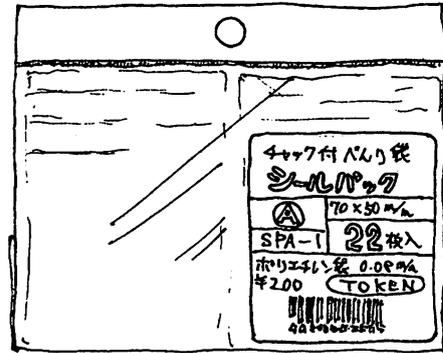
商品名は「シールパック」。このチャック付き便利袋が、死体？拾いにますます拍車をかけることになった。ポリエチレン製の厚さ0.08mmのこの製品は、タッパー（弁当箱のようなポリエチレン製密閉容器）と共に私にとって外歩きの必需品の品に格上げされたのであった。拾った物は潰れないようにタッパーへ入れておけば良いし、シールパックの大きさは各種そろっているのだから、ある程度大きいものを拾っても融通はきく。

個人的に一番使う頻度が高いのはテレホンカードサイズ。調子に乗って虫の死体から植物の種まで、入るものはつつい何でも入れてしまいたくなるから、我ながら困ったものである。

どこにでも売っていると断言は出来ないが、文具店、キャンプ・山用品店などに行けば、たいてい手に入れることができる。ちなみに、私の使っているのは「TOKEN」という会社の製品で、7×5cmのテレホンカードサイズのもので定価200円（22枚入り）で販売されている。そして、同様の製品が各社から出されているようである。

●誰にでもできる「標本もどき作り」

自称、ものぐさ太郎の私は非常に面倒くさがり屋だ。手間や暇がかかりそうなこととは縁遠いものであってほしいと甘えたことを考えている。だから、ガヤチョウやクワガタを見つけて大喜びすることはできても、彼らをきちんとした標本にする技術をいまだに持っていないし、立派な標本を作ろうとしてもガサツな私に展翅という繊細かつ精密な作業なんてさせてはいけなさと自己認識している。しかし、標本の重要性は色々な意味で大きい。標本はどんなものであれ、いつ、どこに、どんな生き物がいたかを証明する強力なパンチ力を持っているのだ。ここで、例の「シールパック」が大いに役立つ。標本もどきの作り方は実に簡単。



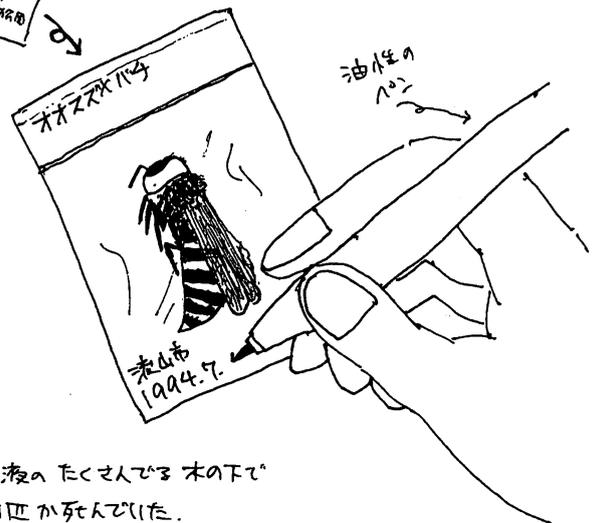
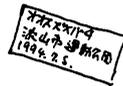
サイズは色々ある



エゴノキの実

まるでチョコレートのおかみだ!!  
ヤマカウが大好きらしい

紙に書いたラベルの中に入れてもいい



1. 拾ったものを乾燥させて、極力水分をなくす。陰干しの自然乾燥でも良い。
2. 「シールパック」に入れる。
3. 拾った場所、年月日を記入する。袋に直接、油性ペンで書いてもよし、紙切れ（ラベル）に書いて袋の中に入れるのもよし。ただし、袋に直接書くと、後ですれて文字が消えることもあるので注意。

特別な技術は必要としないので、本格的な動植物の採集をしたことのない人でも、とりかかりやすいのではないと思う。しかし、標本箱のようにしっかりとしたガードがないものだから、当然圧力には弱い。ここで、登場するのがティッシュペーパーの空箱である。

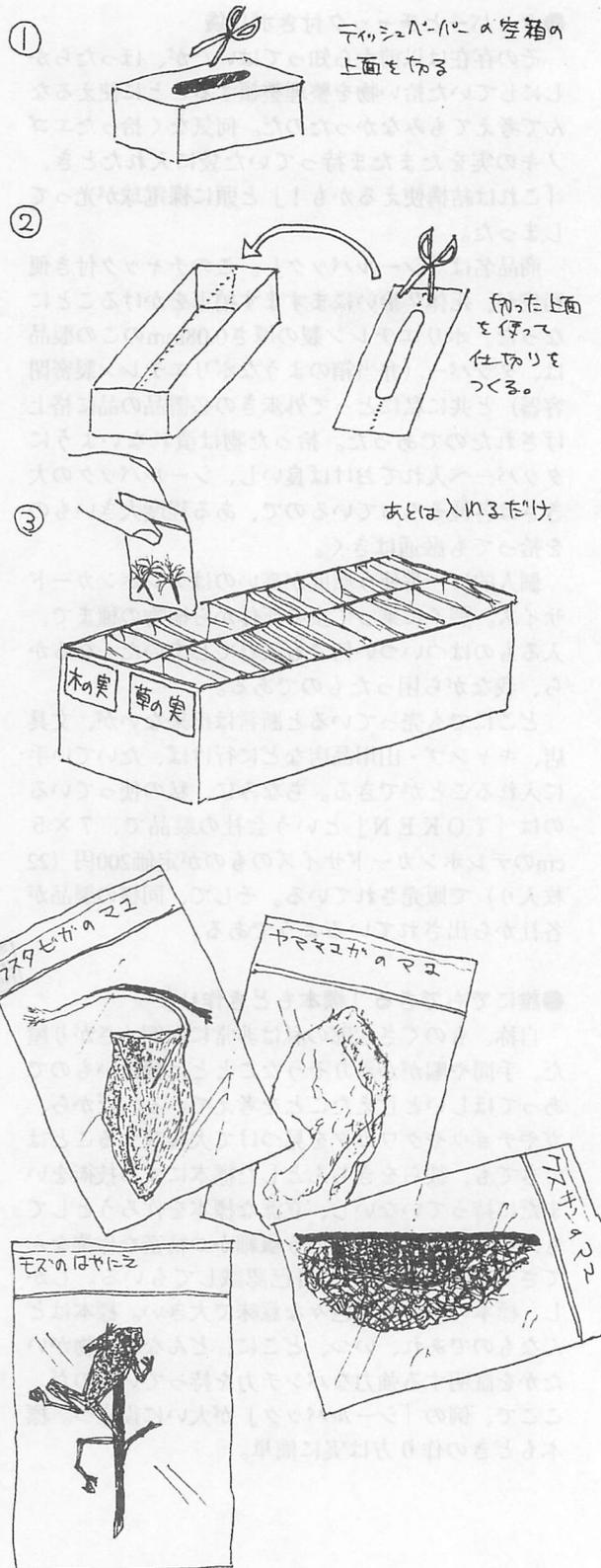
●拾ったものを分類してみよう

市販されているティッシュペーパーはたいがい、11.5×8.0×24.5cmの紙製の箱に入っている。用意するのは、その空箱とハサミと油性のペンくらいである。図のように、上面を切って、その切れ端を使って中に仕切りを作り、後は拾い物の入ったシールパックを並べるだけで良い。種類が増えてきたら、空箱の側面に名前を書いて仲間ごとに分けると、より整理がつくのではないと思う。

フィールドサインの詰まった箱は、更に大きい箱に入れるか、引き出しの中に入れるかすると良いかも知れない。その際、衣類用の防虫剤と一緒に入れることを忘れないように。ちなみに私は、きのこ、甲虫、チョウ、ガ、木の実、草の実、ハチ、海の生き物、貝殻、鳥関係、食跡などに分類している。おかげで、私の部屋の引き出しは防虫剤臭くなってしまった。

●自然観察会での応用

実物が与える感動というものは、人が様々なことを学んでいく上でかなり強い影響を持っているのではないと思う。冬の観察会で葉の落ちた木に、ウスタビガのマユがぶらさがっているのを見つけたことがあった。手にとって見ることの出来ない高さがあったので、シールパックに入れておいた同じ種類のマユを子供たちの前でさっと取り出して見せた。そうしたら、子供たちは大喜びで、その形や色に見入っていた。クスサンやヤマユガのマユも比較として並べてみたら、さっそくある子供が、観察会中にクスサンの「すかしだわら」を探して持ってきて



くれた。いずれも羽化した後のものなので殺生にはつながらない。

バードウォッチングでも活躍した拾い物がある。モズに出会えた時、「モズのはやにえ」が話題に出ることがある。しかし、話はよく聞くものの、実際に「はやにえ」を見る機会はそう多くはないようだ。そこで、シールバックに入っている枝に刺さったアマガエルの干からびた「はやにえ」を取り出したところ、「これがそうなのかあ」と大人にも子供にもささやかな感動を味わってもらうことができた。ペリットや羽根などでも同様の体験をしている。

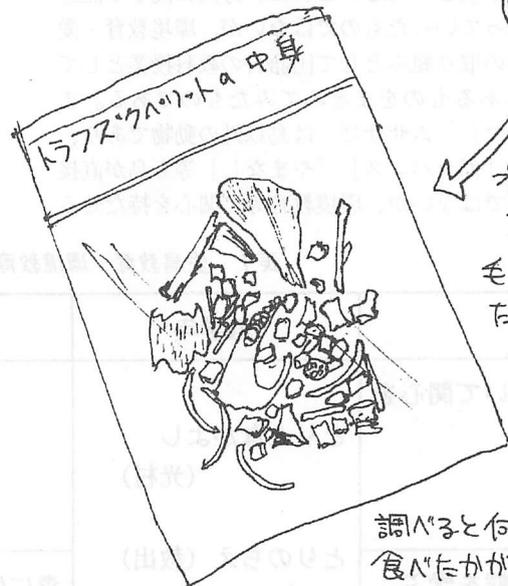
これ以外でも、フィールドによって様々な使い方が考えられるのではないだろうか。実物の持つ魅力や感動を、良い方向に応用することが出来ればと思う。

●フィールドサインのメッセージ

フィールドサインから生き物たちのメッセージを読み取る面白さを育むことで、自然や生き物を見つめる目を確かなものにし、自然観察をますます楽しいものにしていくことが出来るのではと思う。私たちの身の回りには、生き物たちのさりげないメッセージが、たくさんたくさん隠れている。虫の死体一つからでも、それを餌にした鳥や獣たちの生活が見えてくる。拾って楽しみ、集めて楽しみ、生き物どうしや自然のつながりを読み取ることを楽しむ。この方法を取り入れることで、フィールドワークの感動や出会いや発見をより一層豊かなものにしていくことができるのではないだろうか。

●おすすめ読本

- ・盛口満：「僕らが死体を拾うわけ／僕と僕らの博物誌」，どうぶつ社，1994年，1456円
- ・高田勝（文），叶内拓哉（写真）：「落としたのはだれ？」，福音館書店，1994年，1262円



水に溶かして毛をのせりたし骨が出てきた。

調べると何を食べたかが分る。

# 1996年度版小学校国語教科書における 野鳥の取り扱い状況について

常務理事 平田 寛重

1996年度から小学校教科書が改訂された。これから4年度に渡って使用されることになる。今回、国語教科書の野鳥にかかわる内容について調査してみた。その結果について若干の考察をしてみたいと思う。

1996年度版小学校国語教科書の野鳥に関する記載の一覧が表2である。これは、野鳥に関する記述を逐一拾っていったものではないが、環境教育・愛鳥教育等の取り組みとして国語科の教科授業として可能性のあるものをまとめてみたものである。また、「クマ」「ムササビ」は鳥以外の動物であり、「尾瀬」「ガラパゴス」「やまなし」等も鳥が直接の主人公ではないが、環境教育等に関心を持たせる

ためには好都合な内容と思われるので取り上げた。併せて、愛鳥教育及び環境教育に使いそうな単元について、その紹介に加えて、愛鳥教育での位置付けや取り扱い方等についてコメントしてみた。ただし、書籍や映像等の参考資料等も含めた扱いにまでは広がっていない。これについては、別の機会に譲りたいと思う。

愛鳥教育の取り組みをレベル分けし、表2にある単元で構成をしたものが表1である。内容によっては、例えば、低学年の説明文等は、それぞれの領域と複合する場合がある。表1を参考にして以下の内容をお読みいただきたい。

表1 愛鳥教育・環境教育に関連する単元構成表

	低学年	中学年	高学年
鳥について関心を高める	とりとなかよし (光村)		白さぎ (大書) 山なし (光村) 大造じいさんとガン (5社)
鳥の生態を学ぶ。	とりのちえ (教出)	森に生きる (光村)	谷津ひがたの生き物たち (学図)
鳥と生息環境の関係について知る。	ツバメ (教出)	道具を使う動物たち (東書)	ガラパゴスの自然と生物 (光村)
	かわせみ (大書)	ムササビのすむ町 (東書)	人類は滅びるか (光村)
	ペンギンの子そだて (東書)	ひがたは生きている (大書)	
環境保全について判断したり行動したりする力を養う。			くまが危ない (大書) 釧路湿原とタンチョウ (教出) 守る、みんなの尾瀬を (光村)

国語は、直接鳥等の生物や環境保全や自然保護のことを教える教科ではないが、文章を通して、そういったことについて示唆を与えてくれる。その意味で、愛鳥教育の導入段階としての関心を高めるプロセスとして活用することができる。物語文「大造じいさん」に出てくるマガンやハヤブサの話や「やまなし」に出てくるカワセミの話などはそのよい例である。また、低学年の説明文として出てくる「カワセミ」や「ツバメ」などは、関心を高めるだけでなく鳥の生態について考える適当な機会を与えてもくれる。

また、説明文の扱いとして、鳥の形態や生態について述べられている単元がある。これなどは、取り扱い方によっては、自然のしくみを学ぶプログラムの一つとして位置づけることが可能である。「ひがたは生きている」や「谷津干潟の生き物たち」などはその例であり、干潟という小さな生態系を通して自然のしくみを学習することができる。

それから、「人類はほろびるか」では、ハチドリ環境に応じた適応について説明されており、これらの教材を通して、普段、私たちが知らない鳥のくらしや自然とのつながりについて学習することができる。生物と環境との関わりや自然のしくみを認識していかなないと、環境を適正に維持していくための判断力や行動力を培っていくことはできないのは言うまでもない。

鳥を通して、環境保全や自然保護について述べられているものもある。「釧路湿原とタンチョウ」では、タンチョウの生活を通して、タンチョウのため私たちのために何をすることが賢い選択なのか述べられている。また、「守る、みんなの尾瀬を」では、主人公野長靖氏の生き方を通して、自然とのつきあい方、自然保護の意味等を学ぶことができる。

これらの内容は、自分自身の生き方について考えるよい機会ともなる。また、作文を通して自分の考えを述べることにより、生きていくための判断力や行動力の素地を養っていくことができる。

もう少し細かく見ていくことにしよう。まず、物語の領域について考えてみたい。

「大造じいさんとガン」であるが、筆者も子どもの時に学習した覚えがあり、30年以上にもわたって国語の教科書に登場し続けている怪物単元と言うべ

きものである。しかも、どの教科書にも取り上げられており、日本のすべての子どもたちが教科書を通して、ガンにふれているということになる。これを、愛鳥教育に活かさない手はない。

ここで、断っておくが、日本ではガンの仲間として9種類が記録されているが、この物語に登場するガンは日本で一番多く越冬するマガンである。

ガンの取り上げ方として、導入時に、マガンの模型、写真、ビデオ等を使ってプレゼンテーションを行い、関心を持ってもらうということが有効である。同様の方法は、音楽の「とんび」や「かつこう」などの単元の時にも活用できる。

また、学習終了時の発展として、ガンについて関心を持たせるというのもよい。例えば、近くに、ガンやカモを観察できる池や川等の環境があれば、そこを訪れて実際に鳥を観察してみることや、本や視聴覚教材等を使って、ガンについて考えさせることもできる。これらの取り組みは、野鳥や自然環境について関心を持たせるということの主眼において行えばよい。

しかし、学校図書や東京書籍のように「大造じいさんとガン」の内容が1学期に配当されていることがある。これでは初冬の内容を夏の時期に扱うことになり、子どもの季節感や自然観の形成上、問題があらう。単元配当については再考を求めたいところである。

「やまなし」や「白さぎ」などの物語の場合は、雰囲気意識させることが大切である。そこで、カワセミが水中に矢のようにダイビングをして魚を捕らえる様子などを写真や映像を通して紹介すれば、理解も深まり、関心も高まると考えられる。

説明文の領域では、身近な鳥の例として「ツバメ」を扱ったものがある（教育出版・2年）。この場合は、学校周辺や自宅周辺のツバメの巣を実際に観察しながら、教科書の学習を進めていくとよいと思われる。生活科と並行して扱うということも有効であろう。本に書いてあることと自分が観察したこととを比較しながら鳥への関心を高めていくことができ、鳥のくらしや自然とのつながりといったことへの理解もその発達段階なりに身につけていくと思われる。

表2 1996年度小学校国語教科書での鳥などの扱い

出版社	学年	単元名	著者名	ジャンル	内容	種類
大阪書籍	5下	白さぎ	杉 みぎ子	物語		コサギ
光村図書	6下	やまなし	宮沢賢治	物語	親子のカニの話	カワセミ
教育出版	5下	大造じいさんとガン	椋 鳩十	物語	マガンと老人の物語	マガン/ハヤブサ
大阪書籍	5下	大造じいさんとガン	椋 鳩十	物語	マガンと老人の物語	マガン/ハヤブサ
光村図書	5下	大造じいさんとガン	椋 鳩十	物語	マガンと老人の物語	マガン/ハヤブサ
学校図書	5上	大造じいさんとガン	椋 鳩十	物語	マガンと老人の物語	マガン/ハヤブサ
東京書籍	5上	大造じいさんとガン	椋 鳩十	物語	マガンと老人の物語	マガン/ハヤブサ
大阪書籍	4下	ひがたは生きている	国松俊英	説明文	干潟の生態系	シギ・チドリ
学校図書	5下	谷津干潟の生き物たち	国松俊英	説明文	干潟の生態系	シギ・チドリ
東京書籍	3上	道具を使う動物たち	沢近十九一	説明文	行動：知恵（採食）	エジプトハクワシ/ キツキフィン
教育出版	2上	とりのはなし：とりのちえ	樋口広芳	説明文	行動：知恵（採食）	カラス/ササゴイ/ヤマガラ
教育出版	2上	とりのはなし：つばめ	内田康夫	説明文	繁殖生態	ツバメ
大阪書籍	2上	かわせみ	沢近十九一	説明文	繁殖生態	カワセミ
光村図書	3上	森に生きる	今江祥智	説明文	繁殖生態	フクロウ
東京書籍	2下	ペンギンの子そだて	青柳昌宏	説明文	繁殖生態、生きる知恵	アデリーペンギン
光村図書	1上	とりとなかよし	かなおけいこ	説明文	生態（共生）外国の話	ワニホドリ/ウツツキ/ アマサギ
光村図書	6上	人類はほろびるか	日高敏隆	説明文	環境変化と適応	トキ/ハチドリ
光村図書	6上	ガラパゴスの自然と生物	伊藤秀三	説明文	生物と環境の関係	ガラパゴスパンギン
東京書籍	4上	ムササビのすむ町	今泉吉晴	説明文	環境変化に伴う適応	ムササビ
教育出版	6上	釧路湿原とタンチョウ	中村玲子	説明文	自然保護	タンチョウ
光村図書	6下	守る、みんなの尾瀬を	後藤 充	伝記	自然保護	ツグミ/ウグイス/ コマドリ
大阪書籍	6上	くまが危ない	阿部 永	説明文	自然保護	クマ

取り組み方	具体例	備考
関心を高める	コサギの写真を提示したりして関心を高める、近くにいれば観察に行く	
関心を高める	カワセミの捕食シーンの写真やビデオの提示	
関心を高める	マガンやハヤブサの写真やビデオの提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、自然のしくみ(干潟の生態系)について学ぶ	写真やビデオ等の提示、近くに干潟があれば観察に行く	
関心を高める、自然のしくみ(干潟の生態系)について学ぶ	写真やビデオ等の提示、近くに干潟があれば観察に行く	
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	外国産の鳥の話なので、資料も少ないので「ササゴイ」等の国内での道具を使う鳥をビデオ等で紹介する	
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	生活科と並行して行うと効果的
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示	外国産の鳥なので視野の広がりを用意する
関心を高める、鳥の行動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、アマサギ・ムクドリ等は国内で耕地の耕起の際似たような観察ができるので時期を見計らって観察に行く	外国産の鳥なので視野の広がりを用意する
関心を高める、鳥の行動について環境とのかかわりからめて学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、主にハチドリ探餌のシーンのビデオが効果的	
関心を高める、鳥の行動について環境とのかかわりからめて学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、他にヤンバルクイナ等天敵がなく、飛ばなくなった鳥等の紹介	環境への適応により形態や生態を変えた例を紹介
関心を高める、哺乳動物の行動について環境とのかかわりからめて学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、開発と保護活動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、近くにいれば観察に行く	
関心を高める、開発と保護活動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、遠足等校外学習の際に出掛け尾瀬を歩いて自然の素晴らしさを実感する	
関心を高める、開発と大型哺乳動物の保護活動について学ぶ	写真・ビデオ等資料の提示、郷土の大型哺乳動物(シカ等)の状況について学ぶ	

「かわせみ」大阪書籍（2年）や「ペンギンのこそだて」東京書籍（2年）、「森に生きる」光村図書（3年）のフクロウなどは、ツバメと同じように子育ての話が中心に書かれている。実際に目にする機会は少ないと思われるが、本や映像資料等で関心を高めることができる。そして、小さなヒナたちが生き抜いていく知恵や自然界のおきて（弱肉強食）についても学ぶことができる。

教育出版2年の「とりのちえ」（カラス・ササゴイ・ヤマガラ）や東京書籍3年の「道具を使う動物たち」（エジプトハゲワシ・キツツキフィンチ）は、野鳥の生態について、特に「知恵」の部分についての説明文となっている。このような鳥の生態についての初歩的な学習は、鳥の行動やくらしを理解し、それに必要な環境を認識して、私たちとの共生の道を探していく基本となる。

光村図書1年の「とりとなかよし」は、鳥の生態や形態を比較する内容になっている。このような場合、学校周辺の身近な鳥を使い、題材にせまるような教材を作成して授業を補っていくと、身近な環境をとらえる上でも効果的である。

光村図書6年の「人類は滅びるか」に出てくるハチドリ生態の話は、環境に適応するための知恵について書かれている。似たような例を探していくことで、鳥の知恵や行動についてさらに学んでいくことができる。

学校図書の「谷津干潟の生き物たち」、大阪書籍「ひがたは生きている」は、国松俊英氏の童心社刊「わたり鳥のくる干潟」が元になっており、干潟という環境とその生態系について説明がなされている。これに、シギ・チドリなどの渡り鳥にとっての休息地という重要な意味付けをしていくことによって、視野が地球的な規模に広がっていくことができる。近年減少している干潟ではあるが、学区や市町村内にこのような環境が残っている学校では、積極的にこのような単元を活用してほしい。フィールドワークを並行して行えば、効果もさらに上がると思われる。普段誰も気にもとめない干潟の生物が生態系の一部として果たしている役割は大きい。この学習を通して、そういった自然のしくみの素晴らしさを改めて目を向けさせることができる。

教育出版の「釧路湿原とタンチョウ」、大阪書籍の「くまが危ない」、光村図書の「人類はほろびるか」なども、生き物を通して自然環境とのかかわりを説明している。ただの説明文で終わらせるのではなく、もう一步踏み込んで、環境教育の視点も取り入れて、子どもたちに学習の機会を作っていきたいものである。

教育出版6年の「釧路湿原とタンチョウ」は、ラムサール条約にも触れており、環境の保全や保護活動などについての学習の広がり期待できる。この発展として、鳥島のアホウドリ、北海道のシマフクロウやウミガラスなど、絶滅の危機に瀕している鳥などを扱うのもよいと思われる。

以上述べてきたように、説明文からは、鳥のくらしや鳥と環境との関係を知ることができる。このような鳥及び鳥の周辺についての学習を通して、鳥と環境とのつながりが見えるようになれば、その鳥を守る（生息の維持）ために環境をどうすればよいのかといったこともわかってくる。単に同情するということだけでは、適切な判断や行動はとれない。その意味で、こういった学習を欠くわけにはいかないのである。

次に、鳥以外の内容について考えてみたい。

東京書籍4年の「ムササビのすむ町」であるが、都留文科大学の今泉先生の作品である。ムササビを通して、町に住む人たちに自然環境に関心を持ってもらい、人も動物も住みやすい町を作っていくという取り組みである。ムササビはどのような動物で、どんな物を食べどんなくらしをしているかを学ぶことにより、ムササビへの愛着も沸き、ムササビと共存する暮らし方を、地域の人々と共に考えるきっかけが得られよう。丘陵地と社寺林の環境があればムササビは生息するので、そのような環境を持つ学校では、これを参考に観察会等を通して、地域の環境へと意識を広げていってはどうか。

こういったことは、何もムササビに限られているわけではない。地域の特色を生かした取り組みが望まれる。

光村図書6年の「守るみんなの尾瀬を」では、尾瀬への関心を高め、自然が豊かな山と共に暮らしてきた人たちの山への愛情を読みとり、話し合いや作文等の活動を通して、開発や保全についての判断や行動の下地を形成させることができる。現在、このような地域の環境保全に取り組んでいる人たちはたくさんおり、自分が住む地域の様子にも関心を持たせるきっかけともなろう。

このように、物語、説明文いずれの教材であっても、国語の領域においては、野鳥や自然への関心を持たせることがメインとなる。それに合わせて、実際に周辺のフィールドに出かけ、鳥や自然と触れ合う機会をつくるのが大切である。

また、文献を探し、学年に応じて自分なりの考えをまとめるような総合的な学習として展開することができれば、環境教育としても立派な実践になる。

## 利用案内

入館時間／午前9時30分～午後4時

料 金／一般250円 中学生100円

小学生以下および65才以上の方は無料

団体（有料入場者20名以上）は料金の80%の額

休 館 日／毎週月曜日（月曜日が祝日・都民の日にあたる場合はその翌日）

年 末 年 始 12月29日～1月3日

## 交通案内

JR京葉線、営団地下鉄有楽町線

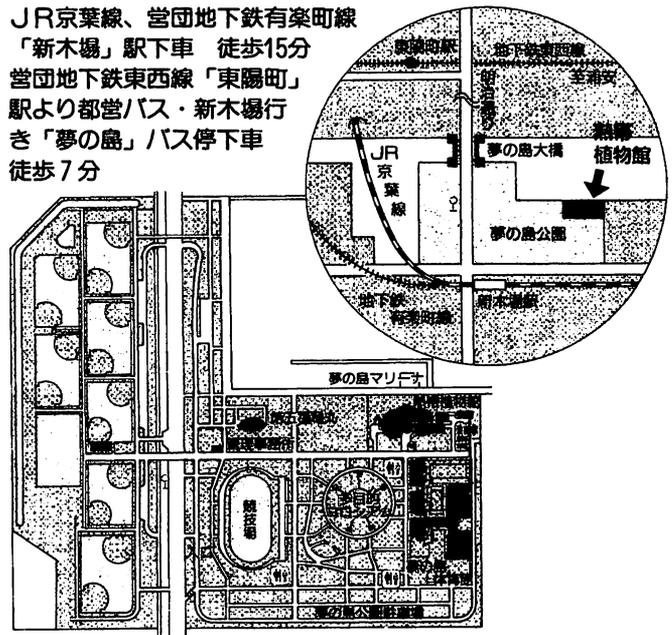
「新木場」駅下車 徒歩15分

営団地下鉄東西線「東陽町」

駅より都営バス・新木場行

き「夢の島」バス停下車

徒歩7分



## 夢の島公園のご案内

夢の島公園は、ゴミの埋立処分場の跡地に整備された面積43haの公園です。公園内には、総合体育館、第五福竜丸展示館、競技場、野球場、多目的コロシアムなどの施設が設けられています。また、多摩動物公園のコアラの館となるユーカリの栽培も行われています。

問い合わせ

## 東京都夢の島熱帯植物館

〒136 東京都江東区夢の島3-2 ☎3522-0281～2

財団法人東京都公園協会

※ P22 冬期研修会本文参照

## 冬期研修会報告

# 東京都中央防波堤埋立処分場

～ゴミを目当てに大挙しておとずれる鳥たち～

事務局 箕輪 多津男

平成9年2月8日(土)に冬期研修会を開催し、中央防波堤埋立処分場および夢の島熱帯植物館の見学を行いました。当日の参加者は、専用バスによる立ち入りのため人数制限があり、定員どおり20名ということになりました。

午前中に訪れた中央防波堤埋立処分場は、東京都江東区の東京湾に面した所にあります。図を見ていただくとわかる通り、東京港におけるゴミの埋立て処分は、昭和2年に始まって以来70年以上の歴史を重ねてきております。しかし、今のペースでゴミの排出が続くと、新海面処分建設予定地を含めても今後約15年しか持たず、深刻な問題となっています。

現在は、中央防波堤外側埋立処分場の埋立て処理が進んでいますが、ここへは、原則として不燃ゴミや焼却不適ゴミ(プラスチック等)など、清掃施設で中間処理されたものが入る仕組みになっています。しかし、本年1月末まで、一部処理しきれなかった生ゴミ等が、現実に持ち込まれていました。

そこで、そのゴミをあさりに、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハシブトガラスなどの鳥たちが、大挙して飛来していました。

2月以降は、生ゴミは持ち込まれていないとのことでしたので、処分場周辺では、徐々にゴミをあさる鳥たちの姿は少なくなっていくものと思われまします。しかしながら、ゴミの集積場所は都市部をはじめ他にもたくさんあり、また、街角のゴミ収集場において、カラス等がゴミをあさることが全国的に問題になっていますので、ゴミ(生ゴミ)と鳥の関係については、これからも真剣に考えていかなければならないと思います。

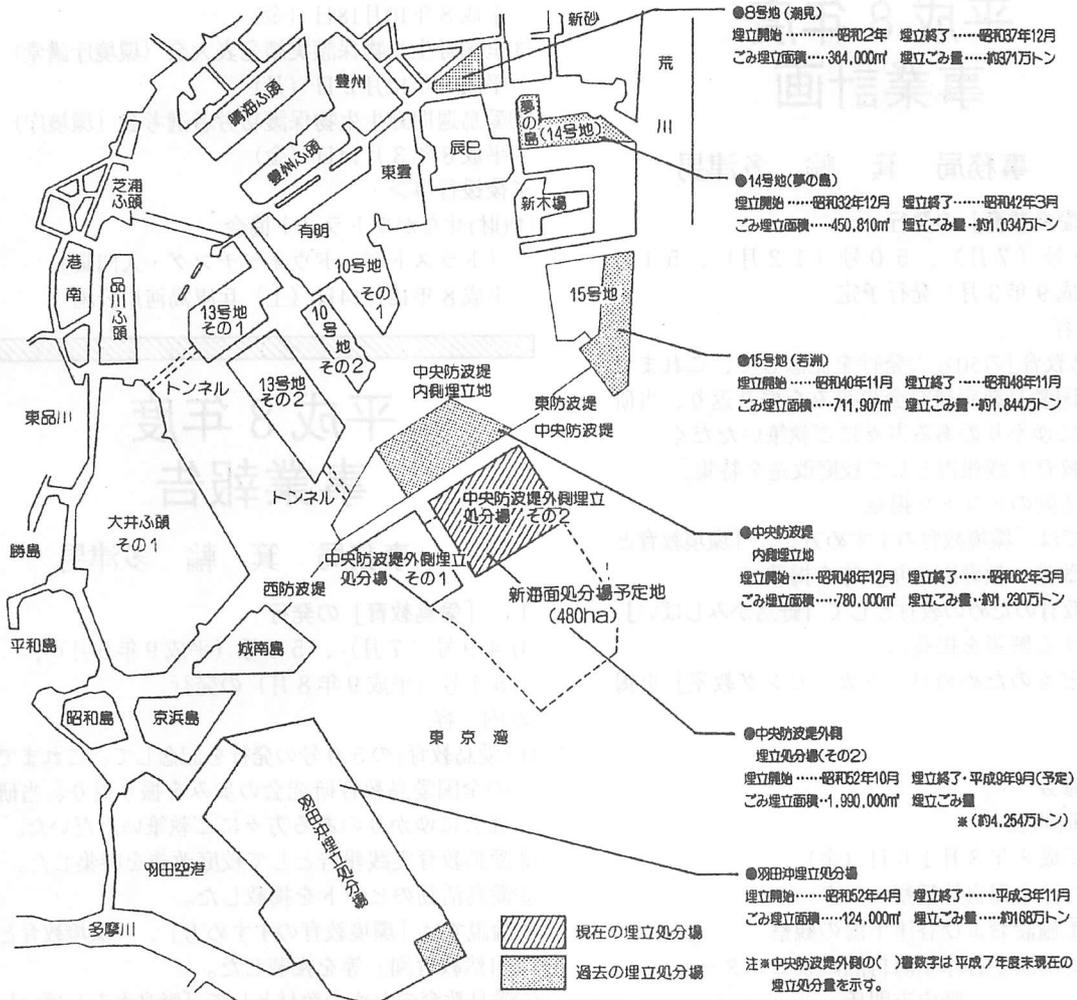
午後のプログラムでは、夢の島熱帯植物館を訪れました。この植物館はその名のとおり、塵芥処分場跡に造成された夢の島公園の一角に位置し、「楽しみながら植物に親しみ、植物と人間との関わりを理解し、自然との共存の大切さを知る」ことを目的に開設されました。館内の冷暖房、給湯あるいは温室(ドーム)の暖房などに必要なエネルギーは、すべ

て江東清掃工場でゴミの燃焼熱からつくられる高温水によってまかなわれており、エネルギーの有効利用という点からも目を見張るべきものがあります。

当日は、館長の野口道夫氏より、植物館のあらまし、および温室に栽培されている世界各地に分布する多くの熱帯植物、さらにはそうした熱帯植物と私たちの生活との関わりについて、大変わかりやすく解説をしていただきました。また、館内の情報ギャラリーには、熱帯雨林に分布する鳥類や哺乳類、昆虫類等の展示解説コーナーもあり、熱帯雨林をとりまく総合的な自然環境について学習できるよう工夫がなされています。聞くところによりますと、1988年11月に開館以来、当植物館にはすでに300万人を優に超える入館者があったそうです。

以上、冬期研修会についての概略を報告させていただきました。今回の研修会は、ゴミ問題に代表される人間社会と鳥との関係、あるいは熱帯植物と人間生活の深い関わりについて学ぶと同時に、参加者それぞれが地球環境問題の未来を見つめる良い機会になったのではないかと思います。





# 平成8年度 事業計画

事務局 箕輪 多津男

## 1. 「愛鳥教育」の発行

(1) 49号(7月)、50号(12月)、51号  
(平成9年3月)発行予定

### (2) 内容

- ①「愛鳥教育」の50号の発行を記念して、これまでの全国愛鳥教育研究会の歩みを振り返り、当研究会にゆかりのある方々にご執筆いただく。
- ②愛鳥教育実践報告として校庭改造を特集。
- ③愛鳥活動のヒントを掲載。
- ④論説では「環境教育のすすめ方」、「環境教育と校庭改造と教育園造り」等を掲載。
- ⑤愛鳥教育のための教材として『野鳥かみしばい』に関する解説を掲載。
- ⑥「子どものためのバードカービング教室」を掲載。

## 2. 研修会

### (1) 夏期研修会

期日：平成8年8月16日(金)

場所：谷津干潟自然観察センター

内容：①施設および谷津干潟の観察

②講演：谷津干潟自然観察センター  
野中志朗氏

### (2) 冬期研修会

期日：平成9年2月8日(土)

場所：東京都江東区中央防波堤最終処分地

内容：①中央防波堤付近と夢の鳥植物園での観察

②ゴミ問題や都市鳥問題の検討

## 3. 常務理事会(開催予定)

平成8年4月、5月、6月、7月、9月、10月、  
12月、平成9年1月、2月、3月

## 4. その他の行事・審査会への参加

<審査会等>

- (1)第50回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい(福島県)  
平成8年5月12日(日)
- (2)愛鳥週間ポスターコンクール及び全国野生生物保護実績発表大会審査会(環境庁)

平成8年10月18日(金)

(3)全国野生生物保護実績発表大会(環境庁講堂)  
平成8年12月2日(月)

(4)愛鳥週間野生生物保護功労者選考会(環境庁)  
平成8年3月14日(金)

<後援行事>

(1)(財)せたがやトラスト協会

「トラストバードウォッチング・入門編」  
平成8年12月14日(土)兵庫島河川公園

# 平成8年度 事業報告

事務局 箕輪 多津男

## 1. 「愛鳥教育」の発行

(1) 49号(7月)、50号(平成9年6月)、  
51号(平成9年8月)の発行。

### (2) 内容

- ①「愛鳥教育」の50号の発行を記念して、これまでの全国愛鳥教育研究会の歩みを振り返り、当研究会にゆかりのある方々にご執筆いただいた。
- ②愛鳥教育実践報告として校庭改造を特集した。
- ③愛鳥活動のヒントを掲載した。
- ④論説では「環境教育のすすめ方」、「環境教育と自然教育園」等を掲載した。
- ⑤愛鳥教育のための教材として『野鳥かみしばい』に関する解説を掲載した。
- ⑥50号にこれまで発行された「愛鳥教育」誌の総目録を掲載した。

## 2. 研修会

### (1) 夏期研修会

期日：平成8年8月16日(金)

場所：谷津干潟自然観察センター

内容：①施設および谷津干潟の観察

②講演：谷津干潟自然観察センター  
野中志朗氏

### (2) 冬期研修会

期日：平成9年2月8日(土)

場所：東京都江東区中央防波堤最終処分地

内容：①中央防波堤付近と夢の鳥植物園での観察

②ゴミ問題や都市鳥問題の検討

3. 常務理事会（開催日）

平成8年4月26日（金）、5月23日（木）、  
6月28日（金）、7月19日（金）、9月26日  
（木）、10月29日（火）、12月5日（木）、12月  
25日（水）、平成9年1月21日（火）、2月18日  
（火）、3月13日（金）

4. その他の行事・審査会への参加

<審査会等>

- (1)第50回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい（福島県）  
平成8年5月12日（日） 江袋会長、渥美副会長
- (2)愛鳥週間ポスターコンクール及び全国野生生物保  
護実績発表大会審査会（環境庁）  
平成8年10月18日（金） 江袋会長
- (3)全国野生生物保護実績発表大会（環境庁講堂）  
平成8年12月2日（月） 江袋会長、杉浦副会長
- (4)愛鳥週間野生生物保護功労者選考会（環境庁）  
平成9年3月14日（金） 江袋会長

<後援行事>

- (1)(財)せたがやトラスト協会  
「トラストバードウォッチング・入門編」  
平成8年12月14日（土）兵庫島河川公園

<行事参加>

- (1)国会議事堂周辺巣箱かけ  
平成9年3月5日（水） 江袋会長
- (2)神奈川県野生生物保護実績発表大会  
平成8年8月21日（水）  
江袋会長、島田常務理事



# 平成8年度 収支決算報告

（単位：円）

【収入の部】

項目	決算額
会費	363,000
売上	531,569
寄付金	6,002
連盟補助金	339,900
受取利息	199
前期繰越収支差額	912,009
収入合計	2,152,679

【支出の部】

項目	決算額
会誌発行費	519,120
通信運搬費	222,270
会議費	69,579
交際費	7,210
交通費	0
事務消耗品費	8,368
資料購入費	47,025
支払手数料	412
雑費	5,000
連盟支払金	719,820
次期繰越収支差額	553,875
支出合計	2,152,679

前期繰越収支差額	912,009円
当期収支差額	-358,134円
次期繰越収支差額	553,875円

上記の通り報告いたします。

平成9年3月31日

会長 江袋 島 吉  
会計 杉田 優 児  
事務局 箕 輪 多津男

監査の結果上記の通り相違ないことを認めます。

監事 徳竹 力 男  
監事 村口 末 弘

論 説

# 鳥の名前がわかってから始まる バードウォッチング

常務理事 平田 寛重

松田道生氏が、著書「バードウォッチング入門」(山と溪谷社、1996)の中で二つのバードウォッチングについて述べていらっしゃる。今回は、愛鳥教育の理念にかかわる二つ目のバードウォッチング「鳥の名前がわかってから始まるバードウォッチング」について考えてみたい。

鳥を見始めた頃は、スズメとカラスとハトしかないと思っていた鳥たちにも実にいろいろな仲間がいることがわかり、目から鱗が落ちる経験をされた方は数多くいらっしゃるのではないかと思います。また、今まで気づかずに過ごしていたけれど、身近な存在として感じることで、愛らしくかわいらしく思え、急に親しみが湧いてきたという方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

このような体験に限らず、鳥との距離を縮めるものの一つとして「名前」がある。名前で区別することによって、小さい鳥はみんなスズメと思こんでいた意識がカワラヒワやホオジロやアオジなど実にいろいろな種類の鳥がいることに驚きを感じるようになる。そして、そのように鳥がわかりはじめた時は、誰もが、あの鳥はメジロで、あっちで鳴いているのがシジュウカラと得意げに話したくなります。

しかし、ある意味で、小さくて黄緑色で目の回りが白いのはメジロと識別ができた瞬間にそのメジロはお払い箱になってしまうとも言える。そして、次は、まだ見ぬメジロでない鳥を探しながら、また歩き始める。一箇所に立ち止まって向こうからやってくる鳥を気長に待とうなどという意識にはならず、ひたすら攻めのウォッチングに徹してしまう。双眼鏡を持ったからには、1種でもまだ見ぬ鳥を追い求めよう。

しかし、このような鳥とのつきあい方では、30種前後で壁に当たってしまう。それは、自宅や学校の周辺では、それほど複雑な環境であることは少なく、生息する野鳥の種類も限られているからである。そして、出てくる言葉は「また、メジロか…。」である。種類だけを追っていると、必ずこの

壁にぶつかることになる。それでも、金と時間に余裕があれば、別の種類が見られる場所に出向いて、新しい鳥との出会いを期待することもできるが、教育活動では、あまり意味のないことである。

では、教育活動としては何を考えなければならないのか？

野鳥を見ることを通してその環境全体をみていくのが愛鳥教育のねらいでもある。野鳥とそれをとりまく環境がどのようにつながっているのか。また、かかわっているのかを意識して鳥を見ていくことが望まれる。そのためには、単に鳥に関心をもつレベルから一歩進んで、鳥を学ぶ段階にステップアップする必要がある。そこで、鳥と環境との関連を探ることや鳥の生態を知るための観察が必要になってくる。

識別だけの観察であれば、要所を短時間に見て、いくつかのポイントから種の同定を行っていけばよい。しかし、生態把握の観察であれば、長時間にわたりじっくりとその個体または種を追いかけていくことが必要になってくる。そして、対象となるものが様々な動作をするなかで、周囲の環境や生物との関連や意味を探っていかなければならない。

詳細な観察をするためには、その個体の雌雄や年齢、冠羽状況などについても、観察を始める初期の段階で把握しておく必要がある。これだけでも、識別だけの観察とはレベルが異なる。加えて、基本的な行動生態としての体の手入れ、採餌、繁殖にかかわる一連の行動などについても観察していく必要がある。

このような行動の観察は、変化に乏しく地味な活動であるため、一見魅力に欠けるようではある。しかし、行動の意味がわかりかけてくると、次々に疑問が浮かび、それが新たな観察のテーマをもたらす、意欲の維持にもつながってくる。

例えば、観察を続けていくと、アオジ・クロジ・ホオジロ・ホオアカ・オオジュリンなど同じホオジロの仲間でも生息環境が微妙に異なることや、カモの仲間のように種によって採餌場所が異なっている

ことなどに気づくようになる。

このようなことは、深い観察をしていく中で経験していくことである。そして、採餌場所や生息環境が異なる訳を別のチャンネル（餌・天敵等）から推測していくことによって、行動の意味をさぐることができるようになる。

また、生態や形態がなぜ種によって異なるのか？といった疑問も観察を続けていくうちに浮かび上がってくる。さらに、ディスプレイは種によってどのような相違があるのか、求愛給餌はどのような種が行うのかなど、行動を比較して調べ、データとして蓄積していくことによって、環境との関連や生物としての生きる知恵などをさぐる足がかりにもなっていく。

このように、ウォッチングひとつを取り上げても、視点を変えることによって、関心を高めたり感動を受けたりというだけでなく、より深い観察ができるようになること、そしてまた、そういった観察を続けることによってそれまで見えなかったものが見えるようになるということを重要視したいものである。そして、そこから湧き出る疑問をさらに追求していくウォッチングは、鳥の名前がわかるようになった人の次なるステップアップのための処方箋でもある。奥深く興味のつきないウォッチングの世界に足を踏み入れよう。

## はじめての鳥

鈴木 奈津子

鳥に興味を持っていなかった人間が鳥に興味を持つ瞬間というのは、意外にささいな事からであったりする。

私が自然に興味を持ったのは、幼少の頃からで、何に心引かれたのかは、あまりにも漠然としていて思い出すことができない。しかし、私が鳥と初めて心から向き合えたのは、ムクドリを望遠鏡で見たその瞬間であった。

ムクドリは、街の様々な所に出没する鳥である。私も、昔から名前は知っていたし、庭に来ることも知っていた。しかし、大学のインタープリターの講師としていらしていた杉浦さんの後ろについて何気なく望遠鏡を覗いた時、その黄色の嘴と黄色の足に、正直“ギョッ”としてしまった。私にはそれがキュウカンチョウに見えた。

キュウカンチョウは、私にとって決して身近な鳥ではない。細い足でギュッと握ってくる籠の中の世界の生き物である。その鳥が、今まで身の回りを飛びかっていたことに気付いた時、自然というものに対する価値観が変わった。今まで私は何を見ていたのだろう。自分が自然の中に溶け込んでいる事を実感した。その感覚を体得して、初めて本当の意味での生命の大切さを理解したように思う。

知ろうとする積極性がなくても、ふとしたきっかけで自然の大きさを感じることもある。何事も、まずは接してみるということが重要であると考え。愛鳥教育研究会を通して、子供達が鳥に接する機会を増やすことができるよう、私なりに考えてゆければと思っています。

## 平成9年度 秋期研修会のご案内

例年、「夏期研修会」を実施してまいりましたが、本年は、サシバ等の渡りの時期に合わせ、「秋期研修会」として実施することにいたしました。

開催地となる伊良湖岬周辺は、その渡りのメッカであり、上空を次々と舞っては過ぎていくサシバの姿は圧巻です。日本の他の地域では見ることのできない光景が、2日目午前、私たちの眼前に展開されることでしょう。

2日目午後のプログラムでは、三河地方を中心とした野鳥をはじめとする野生生物についての幅広いお話や、本年2月に発足した「三ヶ根ハヤブサを守る会」の日々の活動の様子など、愛鳥教育の展開として興味深い内容についての講演を、地元の先生方をお願いしてあります。

渥美半島の豊かな自然の中、秋の一日を共に過ごしませんか。どうぞ奮ってご参加ください。

### 記

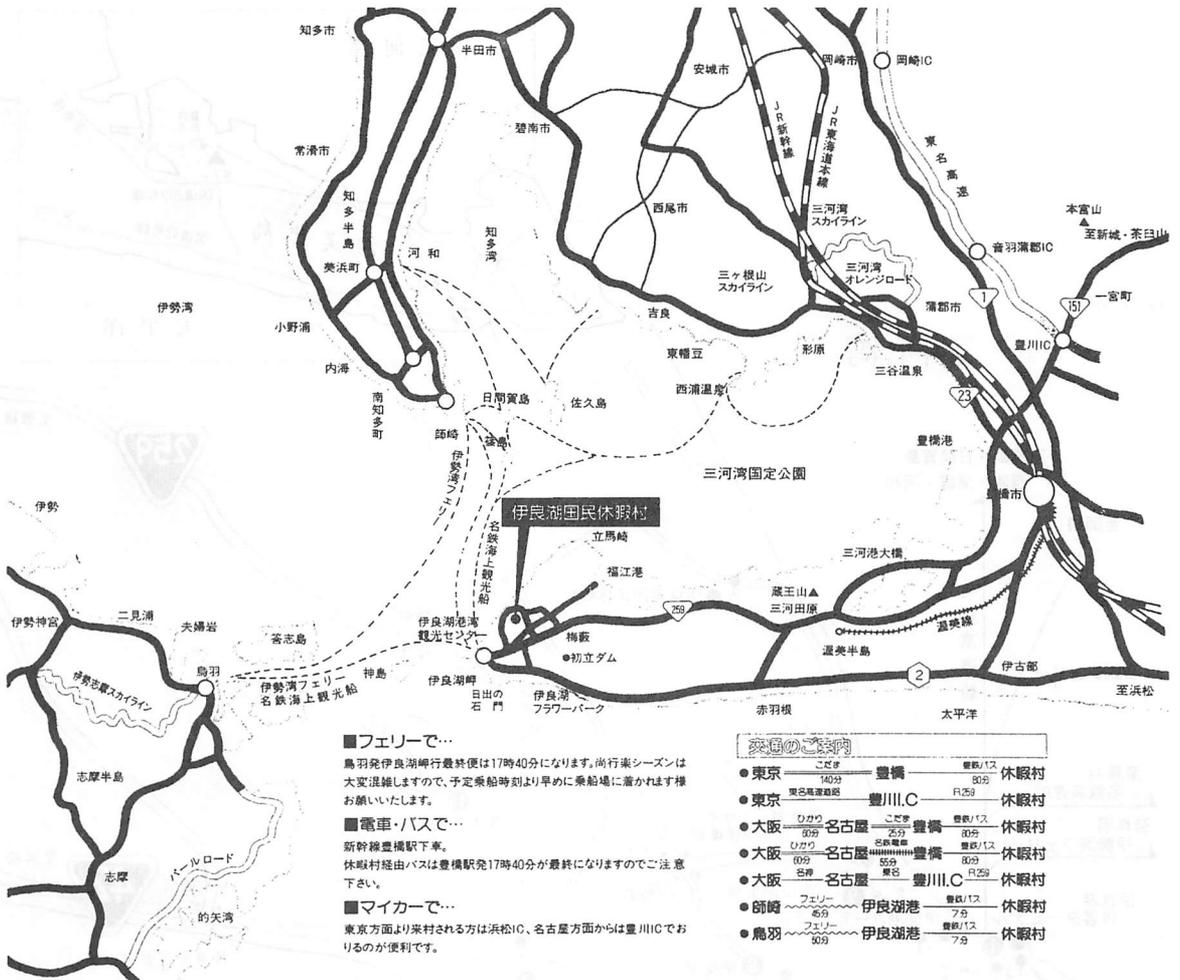
1. 日 時 平成9年10月10日(金・体育の日)～11日(土)
2. 場 所 (野外視察) 愛知県渥美半島伊良湖岬周辺  
(講演会) 伊良湖ビューホテル
3. 参加費 ・会員…無料 ・非会員…1,000円
4. 持参品 筆記用具、観察用具、等
5. 日 程

◎【1日目】10月10日(金・体育の日) ※会員のみ参加可

- 14:00 伊良湖旅客ターミナル・  
乗車券発売所前ロビー 集合  
愛知県渥美郡渥美町伊良湖宮下3000-65  
電話 05313-5-6631
- 14:00 博物館見学、周辺の自然観察、他
- 17:00 解散(伊良湖ホテル前)  
愛知県渥美郡渥美町恋路ヶ浦2805-22  
電話 05313-5-6321

◎【2日目】10月11日(土)

- 9:00 伊良湖岬恋路ヶ浜・大駐車場 集合  
(民宿・おみやげ店街の正面)
- 9:00 伊良湖岬周辺、サシバ等の渡り・野鳥観察等  
《指導》渥美自然の会会長 大羽康利 氏
- 11:00 各自昼食
- 13:00 伊良湖ビューホテル 再集合  
2F宴会場「シーサイド」  
愛知県渥美郡渥美町日出骨山1460-36  
電話 05313-5-6111
- 13:00 講演①「ハヤブサの保護と子供たち」  
《講師》全国愛鳥教育研究会副会長 渥美守久 氏  
講演②「出会い湿原ふれあい野鳥」  
《講師》東三河野鳥同好会会長 皿井 信 氏  
質疑応答・意見交換
- 16:00 閉 会



**■フェリーで…**  
鳥羽発伊良湖岬行最終便は17時40分になります。尚行来シーズンは大変混雑しますので、予定乗船時刻より早めに乗船場に置かれますようお願いいたします。

**■電車・バスで…**  
新幹線豊橋駅下車。  
休暇村経由バスは豊橋駅発17時40分が最終になりますのでご注意ください。

**■マイカーで…**  
東京方面より来村される方は浜松IC、名古屋方面からは豊川ICでおられるのが便利です。

●東京	こだま	豊橋	豊橋12分	休暇村		
●東京	東名高速道路	豊川IC	R259	休暇村		
●大阪	リカワ	名古屋	こだま	豊橋	豊橋バス	休暇村
●大阪	リカワ	名古屋	名鉄	豊橋	豊橋バス	休暇村
●大阪	名鉄	名古屋	豊川IC	R259	休暇村	
●師崎	フェリー	伊良湖港	豊橋12分	休暇村		
●鳥羽	フェリー	伊良湖港	豊橋バス	休暇村		

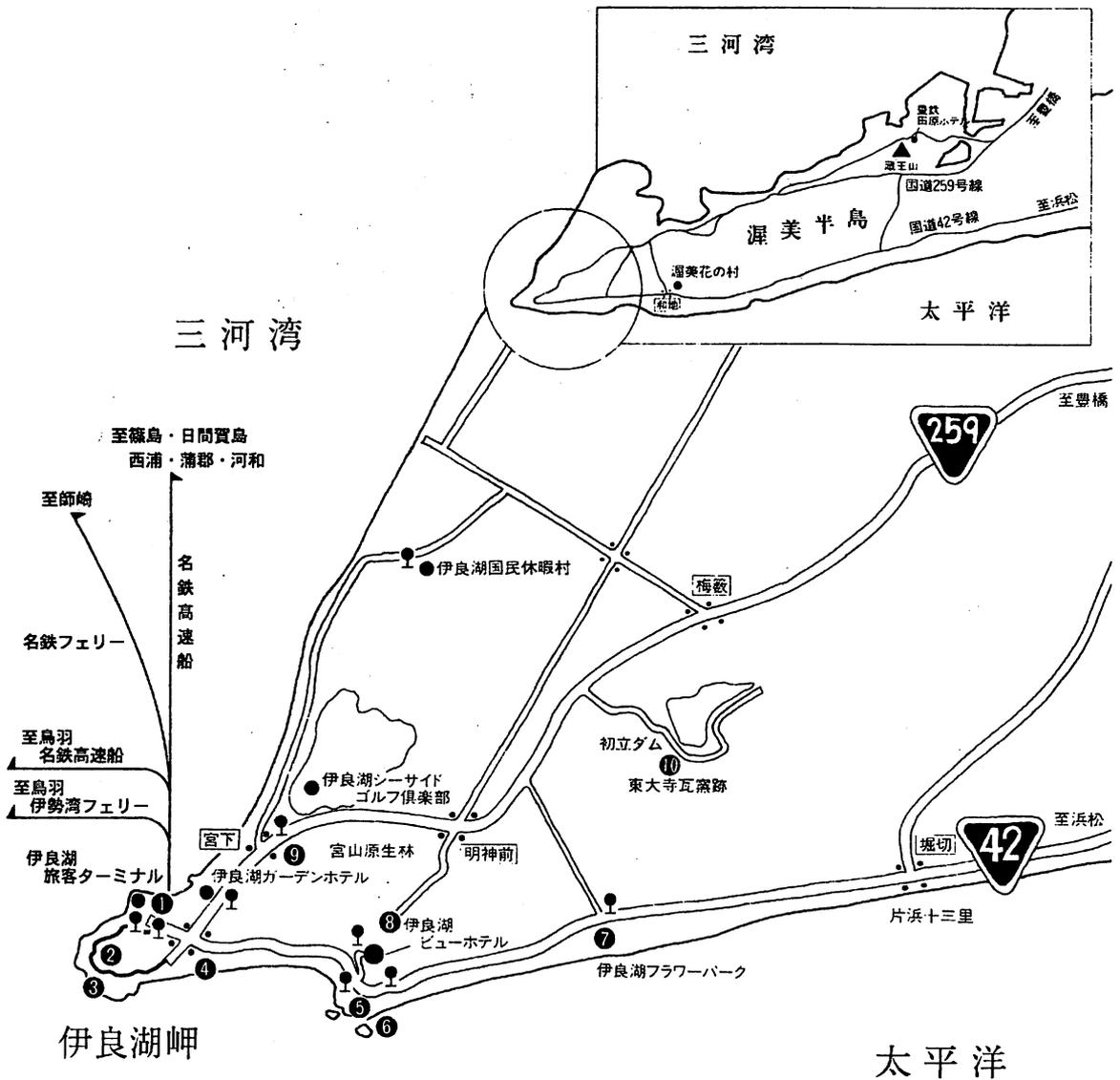
6. 交通

- ・ J R (新幹線) …豊橋駅よりバスで伊良湖岬まで約1時間30分
- ・ 船…鳥羽より高速船で35分、フェリーで40分
- ・ J Rバス…伊良湖岬ライナーで東京駅から約5時間
- ・ 車…東名高速浜松IC.または豊川IC.より約1時間40分

7. 宿泊

周辺のホテルおよび民宿 (※各自申し込みをお願いします。)  
 宿泊案内所 渥美観光案内所  
 電話 05313-5-6123

◆申し込み◆  
 次頁の通り。



◆申し込み◆

下記事務局まで、ハガキ、電話、またはFAXにてお申し込みください。折り返し日程表および周辺の地図等をお送りいたします。

〒160 東京都新宿区新宿2-5-5  
 新宿土地建物第11ビル5F  
 (財)日本鳥類保護連盟内  
 全国愛鳥教育研究会事務局  
 担当：箕輪多津男  
 電話 03-3225-3590  
 FAX 03-3225-3593

① やしの実博物館 (伊良湖旅客ターミナル内)  
 日本で唯一の「やしの実博物館」です。世界各国のやしの実や民具(やし細工)を展示してあります。

② 万葉の歌碑  
 昔、罪を得て流人となった麻統王(おみのおおきみ)は、この地で村人が流浪の生活を慰めた時「うつせみの命を惜しみ波にぬれ、いらごの島のたまも刈り食す」と村人の思いやりに応えたものです。

## ③ 伊良湖岬灯台

潮さわぐ伊良湖水道を見おろしてそびえたつ灯台は岬の先端に建てられており近海の航路を照射しています。

## ④ 恋路ヶ浜

灯台から太平洋に面して日出の石門まで約1km太平洋の荒波をうけて湾曲する美しい砂浜です。

## ⑤ 椰子の実の詩碑

「名も知らぬ遠き島より流れよる椰子の実一つ…」と詩われた島崎藤村の「椰子の実」の発祥の地です。

## ⑥ 日出の石門（ひいのせきもん）

太平洋の波涛の浸食により、中央部が洞穴となった石門は沖の石門、岸の石門と二つあって美しい渚が続く海岸線が素晴らしい。

## ⑦ 伊良湖フラワーパーク

南国ムードいっぱいの特ロピカルドーム、ヨーロッパ調のフラワーパビリオン、南米アンデス山脈にしか咲かないまぼろしの球根ベゴニアの花が見られるベゴニア館。フラワーガーデンでは、西洋風大花壇、花つみ館など、年中四季の花がお楽しみいただけます。

## ⑧ 糟谷磯丸（かすやいそまる）碑（伊良湖神社）

幼名「新之丞」という無学な漁師が30才をすぎでから和歌に没入し、数万首にのぼる歌をつくり、「漁師の歌よみ」として全国にひろがり、幕府は「磯丸霊人」の名を贈って神様にしました。

## ⑨ 芭蕉の句碑

「鷹一つ見つけてうれし伊良湖崎」この句は貞享4年（1687年）11月保美の里に隠棲していた愛弟子杜国を慰め連れだつて伊良湖岬を巡ったとき詠まれたものです。

## ⑩ 東大寺瓦窯跡

鎌倉時代、東大寺大仏殿の瓦を供給した窯の一つ。伊良湖が海路により大和・伊勢につながる人文の交流点であったこともうかがえます。

（以上、解説文は伊良湖岬案内パンフレットより）

## 編集後記

今回、バードカービング作家としても著名な遠藤勇氏に、石ころで楽しめるクラフトの紹介をしていただきました。ちょっとした発想から様々な作品が作れることを知り、こういった自然の楽しみ方もあるのだなあと、つくづく感心してしまいました。これなら、小学校の図画工作の授業やクラブ活動の教材としてすぐにでも取り組めそうですし、大人の趣味や遊びとしてもおもしろいと思いました。

新シリーズとして「もりまき通信」が始まりました。著者の森真希さんは、まだ大学生ですが、「野鳥」「BIRDER」にも紹介されるほど、フィールド活動に熱心に取り組んでいらっしゃる方です。本会の運営にもご協力をいただいております。シリーズとしての執筆をお願いしました。ちなみに、イラストも彼女のオリジナルです。ご期待下さい。

鈴木奈津子さんも、本会の運営にお手伝いいただいている若手の方ですが、「野鳥との出会い」の素朴な体験について書いていただきました。これが出発点となり、更に平田寛重氏が論説で述べられたようにレベルアップする道筋を見据えていきたいものだと思います。

伊良湖岬の秋期研修会に奮って御参加下さい。

（杉田）

## 愛鳥教育 No.51

平成9(1997)年8月31日

発行人	江袋島吉
発行所	全国愛鳥教育研究会
住所	〒160 東京都新宿区新宿 2-5-5 新宿土地建物第11ビル 5F (財)日本鳥類保護連盟内
電話	03-3225-3590
FAX	03-3225-3593
会費	3,000円
郵便振替	00180-7-12442
印刷所	祐文社

# 愛鳥クイズ

## 【前回の解答】

今回は、鳥の名前の由来について考えてみる問題でした。

1. 鳴き声に由来するもの  
カッコウ、ジュウイチ、ケリ、ウミネコ、ピンズイ、ヒヨドリ、カケス、サンコウチョウ
2. 色に由来するもの  
アカハラ、キセキレイ、メジロ、ホオジロ、キレンジャク、ヒレンジャク
3. 模様由来のもの  
コノハズク
4. 形に由来するもの  
カンムリカイツブリ、エナガ
5. 性質（行動）に由来するもの  
モズ、（ツカツクリ、サイホウチョウ）
6. 食性に由来するもの  
ムクドリ、（ドングリキツツキ）、カシドリ、＜カケス？＞、ヒシクイ、アリスイ
7. 大きさに由来するもの  
ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、コシャクシギ、オオアカゲラ、コアカゲラ、コゲラ、コヒバリ、  
ダイサギ、チュウサギ、コサギ
8. 場所の名前に由来するもの  
ヤンバルクイナ
9. 生息環境に由来するもの  
ヨシゴイ、イワヒバリ
10. 体（一部及び全体）の形に由来するもの  
ハシプトガラス、ハシプトウミガラス、ハシボソガラス、ハシボソカモメ、ソリハシシギ
11. 体の特徴に由来するもの  
ハシビロガモ、ミツユビカモメ、ツメナガホオジロ、ツメナガセキレイ、オナガ、オナガガモ、  
ミュビシギ、ミュビゲラ

参考文献：国松俊英「名前といわれ日本の野鳥図鑑1・2」

---

## 【今回の問題】

今回は、絵本や童話、物語に出てくる鳥について考えてみましょう。答えは、すべて種名（標準和名）で書いてください。

1. 宮沢賢治作「やまなし」に出てくる水の中に飛び込む鳥の名前は？
2. 宮沢賢治作「セロ弾きのゴーシュ」に出てくるゴーシュに音楽の指導をする鳥の名前は？
3. 椋鳩十作「大造じいさんとがん」に出てくるがんの種名は？
4. 椋鳩十作「大造じいさんとがん」に出てくるがんを襲う鳥は？
5. 村上康成作「ようこそ森へ」の絵本に出てくる森の番人役の鳥の名前は？